

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1151

「NEWSな済生人」
済生会の
クラウドファンディング
先駆者



5

May 2025

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



200

信頼の風を受けて

2月中旬、宮崎県木城町に所在する石井十次記念館を訪れた。十次が生まれた高鍋町から車で20分くらいの距離である。2月とはいえ南国らしく暖かいさわやかな風が吹いていた。記念館は野鳥が囀る田園地帯にあった。岡山市で孤児の保護を

大規模に展開していた十次は、この地で孤児が豊かな自然の中で農作業に励むことで健やかな成長や自立への道を求めようとした。この一角に資料館があった。十次のひ孫に当たる石井記念友愛社理事長の児嶋草次郎さんが

4月上旬、東京都清瀬市にある救世軍清瀬病院を訪ねた。この病院は山室軍平が80数年前に設立したホスピスを中心とする

☆ ☆
しかし、彼らは常に資金難に悩まされた。財閥や富裕層の支援も大きかったが、多くの国民の支援が下支えになり、日々の経営の危機を何とか切り抜けてきた。

☆ ☆
住民からの信頼の風を受けられ、この戦後最大の経営危機は必ず乗り越えることができる。

☆ ☆
住民からの信頼の風を受けられ、この戦後最大の経営危機は必ず乗り越えることができる。

☆ ☆
住民からの信頼の風を受けられ、この戦後最大の経営危機は必ず乗り越えることができる。

☆ ☆
住民からの信頼の風を受けられ、この戦後最大の経営危機は必ず乗り越えることができる。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永続性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。

救急拠点病院として 新潟を支え続ける

社会福祉法人 新潟 済生会支部 新潟県済生会
済生会新潟病院

救急車更新のために
クラウドファンディングで
ご寄付募集中

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

令和7年 4/21 月 9時
令和7年 7/18 金 23時
目標金額：1,000万円

新潟市の大きな課題のひとつに、救急医療のひっ迫があげられています。この課題に立ち向かうべく、私たちは2023年5月、新潟市内における新たな救急拠点の整備・運営主体に手を挙げ、選ばれました。

そして職員一丸となって取り組みを進めたことで、当院における救急車の受入れ台数は飛躍的に増加し、2022年度に3,062台だった救急車の受入れ台数は、2023年度には約1.5倍の4,521台へと増加しました。

一方で、救急車の受入れ増加に伴って入院件数が増えると、ベッドも満床状態に近づきます。継続してより多くの救急車を受け入れるためには、急性期の治療を終えた患者さんの転院も検討しなければなりません。そのための要となるのが、転院搬送に使用する病院救急車です。

現在当院で保有している救急車は、これまでDMATカーとして災害発生被災地での救命活動のために使用してきました。今後は、転院搬送用及び災害時出動用としての役割が求められるようになります。

現在使用している救急車は、走行距離が26万キロを超え、長年の稼働により車体の劣化が進み、故障のリスクが高まり良好な状態を維持することが難しくなっています。

昨今の物価高騰などを背景に病院経営も非常に厳しくなっており、救急車の購入のための予算が確保できておりません。そこで私たちは救急車の購入のために、皆さまのお力をお借りするべく、クラウドファンディングに挑戦いたします。

どうか、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付の方法は裏面をご覧ください
お問い合わせはこちら
025-233-6161
crowdfunding@ngt.saiseikai.or.jp

詳細はこちら
済生会新潟 レディーフォー
https://readyfor.jp/projects/saiseikai-niigata2025

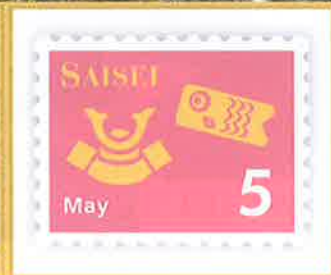


topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

リョウセン
百花繚乱の季節が到来! 子
どもからお年寄りまで各地
でお花見を楽しんだ便りが
届きました。



表紙のことば

甘酸っぱい初夏の記憶

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

赤い実を噛むとほんのりした甘酸っぱさが口に広がる。さくらんぼの季節は爽やかな初夏で、みんなうきうきして笑顔であったように思います。クリームソーダやプリンアラモードの上に誇らしげに乗っ

ている真っ赤な果実にワクワクした記憶はないでしょうか。私は特別な感じがしました。さくらんぼには人生の初夏のような時期の陽気さや期待やときめきが詰まっているように感じます。



済生

SAISEI

CONTENTS

MAY, 2025

NEWSな済生人

済生会のクラウドファンディング先駆者

長崎病院

院長

衛藤正雄さん

06

副院長 兼 事務部長

久保山雅弘さん

事務次長 兼 経営企画室長

奥川政彦さん

済生会交差点

《投稿・身体拘束低減の取り組み》看護補助者会主体で研修実施。身体拘束低減・解除進展に貢献／《超緊急帝王切開シミュレーション》窮地の母児の命を救う! 30分以内の娩出を目指した挑戦／《誰もが安心して暮らせる社会を》地域・行政と連携して研修会実施。身寄りなし問題への理解を深める

10

機関誌「済生」が 創刊100年!

連載

22

巻頭コラム 済生会の不易流行論

信頼の風を受けて 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

済生会生活困窮者支援事業 優良事業

17

ソーシャルインクルージョン

18

第17回済生会共同治験実務者研修会

20

この人 温水洋一

24

口福につぼん 吉井省一

26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ いまいみさ

28

TOPICS

30

大雑報

78

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



2022年6月、初出勤の新救急車



古い救急車で、病院近くの新大工町商店街のハロウィーン・イベントに参加、ハロウィーンらしく飾り付けて展示をした。外での記念撮影、職員が立ち会っての乗車体験など、地域のみなさんにふれあっていただいた

2021年、病院救急車の更新でCF
病院一丸で目標達成



長崎病院

院長

衛藤正雄さん

副院長 兼 事務部長

久保山雅弘さん

事務次長 兼 経営企画室長

奥川政彦さん

左はインタビューの川原さん



長崎病院外観

経営基盤
強化策と
してCF
の活用

※写真撮影時のみマスクを外しています

長崎病院は2021年10月11日に救急車の更新をテーマにクラウドファンディング（CF）を実施して目標の1300万円を達成。これがつきかたで済生会は22年7月にCF事業者・READYFOR社と業務提携を結びました。どのような経緯で実施したのか、病院における救急車の用途やプロジェクトを通して得られた地域とのつながりを聞きました。

（栃木・宇都宮病院 済生記者 川原彩花）

川原 長崎病院でクラウドファンディングを実施した経緯を教えてください。

久保山 私が2019年、朝のニュース番組で大阪府三島救命救急センターのCFを目にしたことがきっかけです。そこでCFを知り病院でも実施されていることを知りました。

川原 そこからどのように実施につながったのでしょうか。

久保山 当院も財政が厳しい状況でした。CFを活用して何が出来るかを考え、救急車ならより具体性を持ってやれるのではないかと考えました。

川原 宇都宮病院も24年にCFを実施しました。現在はさまざまな施設で取り組んでいます。現在は長崎病院が初でした。

久保山 済生会本部で行なわれた会議で、

話が出て、「これはやれるかもしれない」と思いました。その後、本部に相談しました。

たが、当時は救急車の更新がCFのテーマとして相応しいか懐疑的な意見もありました。最終的に許可が出て、その後は奥川事務次長が頑張ってくれました。

川原 奥川次長はどのような取り組みをされたのですか。

奥川 久保山事務部長から資料をもらいCFを調べ、当院で何ができるか経営企画室のメンバーで検討しました。当時はコロナ禍だったのでコロナ診療など検討しました。

川原 そこで救急車の更新が決まったのですね。

奥川 はい。25年間も使用された救急車の買い換えが急務であったこと、当院が救急・急性期病院であることが決め手になりました。「テーマは救急車でいきたい」と経営会議に上程して、衛藤院長からも「トライしてみなさい」と後押しされました。その後、医療系の実績が多いCF支援会社と業務提携を結びました。

病院が自前で救急車を持つ

川原 地域住民の中には、病院が救急車を

地域とのつながりが できたことも プロジェクトの収穫

走型でサポートしてくれるので安心感がありました。全国への発信は当院ホームページでもできますが、それだと伝播しづらい。注目プロジェクトとして優先度を上げて掲載してくれた効果はあったのではないかと思います。SNSや雑誌にもプロジェクトを掲載してくれました。



屋上・ヘリポートからのぞむ市内。坂の多いこの街で、新救急車がさまざまな場面で活躍している。長崎病院は、慢性期型病院から「入院特化型急性期・救急病院」へと変革。205病床全てが個室であることも大きな特徴となっている



この救急車はクラウドファンディングによる。車体にはみなさんからCFで支えていただいたことが記されている

搬送に関わるスタッフからは「車両性能が向上し、安全性も高くなった」と好評



支援者からの応援メッセージは外来フロアに掲示。【下】病院から支援者へ送った活動報告書には職員のお礼の言葉を掲載したところ、それに対して支援者の一人から手書きの絵葉書が届いた



【上】実行部隊の経営企画室メンバー 【下】院内診療棟2階フロアに寄付者名板を設置

奥川 プロジェクトメンバーだけではできる範囲も限られてきますよね。当院でも院長をはじめ医師の皆さんがホームページ上にメッセージを出したり、個別に寄付をお願いしたりと積極的に働きかけられました。川原 CF支援会社のサポートはいいかげんだったのか？奥川 初めてのことはかなり助けられましたね。伴

川原 最後に、CFを実施してよかった点を教えてください。奥川 近隣の新たな大町商店街の皆さんをはじめとした地域の方々との結びつきが強くなったことも収穫だと感じています。川原 それまで商店街との交流はあったのでしょうか。奥川 ほとんどなかったのですが、CFの広報に協力してくださいとお願いに上がったのがきっかけになりました。それから古い救急車で商店街のハロウィーンやクリスマスなどのイベントに参加するようになり、地域の方々との交流する機会も多くなりました。川原 実際にはどのよう



川原 最初は「ポスターを貼らせてください」とお願いしました。まずは商店街の組合から各店舗に案内しても



川原 お互いの顔が見える付き合いが大事ですね。奥川 その通りです。断られることもありました。奥川 多くの店舗で「いいよ」とポスターを貼ってくれました。各店舗には達成御礼、終了御礼など

らった後、私たちがポスターを持って一店ずつ回りました。

【取材を終えて】
済生会グループの中でも先陣を切ってCFに積極的に挑戦された長崎病院の姿勢と熱意に深く感銘を受け、宇都宮病院でもCFを実施した経験があるからこそ、その想いに共感できる部分が多くありました。地

(川原彩花)

整備していることを知らない人もいます。奥川 そうですね。地域の中で救急車がどう扱うのか、どう使われているのかというの

川原 介護タクシーを利用できないケースというのは？奥川 介護タクシーには乗れないので、ストレッチャーで寝かせながら搬送することになります。川原 そのほかの用途はありますか？奥川 更新前の救急車を使用していた頃に、終末期の患者さんがご自宅で最期を迎えたという要望があり、救急車で搬送したことがありました。その半日後に亡くなったのですが、最期に家で過ごせてよかったと感じています。川原 それも自前の救急車があつてこそできたことですね。奥川 あと当院は災害時に救急車を使用することがあります。16年の熊本地震発生時



川原 話をCFに戻します。プロジェクトメンバーはどのように決まったのでしょうか。奥川 経営企画室のメンバーを中心に事務部長が任命しましたが、実際には多くの職員が関わってくれました。病院全体で取り組めたのはよかったですね。川原 宇都宮病院のCFのテーマが「生殖補助医療」だったので、産婦人科の医師や助産師、培養担当技師など多職種で構成され、私が所属する経営支援課が事務局となり取り組みました。



川原 救急車は災害医療の活動でも不可欠だということですね。奥川 救急車がないと活動が制限されることがあります。当院では救急車の他に災害支援に必要な物品を運ぶためのDMATカーも所有しているので、そういう意味では新しい救急車と共に災害時の体制強化ができたといえます。

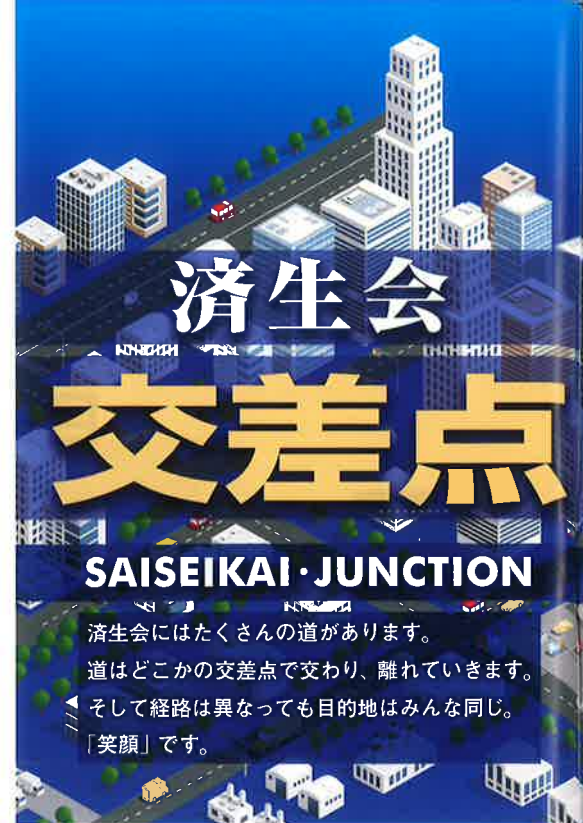
初チャレンジの先に得られた財産
「地域とのつながり」



当院の看護補助者は40人ほどで、その約7割は介護福祉士



看護補助者が毎日実施する体操により患者さんの筋力が向上、転倒リスク低下などにつながる



課題も浮き彫りになりました。20年度からは、研修と現場で

済生会 交差点

SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。

の実践を結びつけるために、研修のやり方を変更。事前に病棟ごとに身体拘束低減をテーマとした介護計画を立案・実施し、その成果をスライド資料にまとめ、事例報告会で発表、共有するという形にしました。



この取り組みを通じて、看護補助者の業務への姿勢が受動から能動へと変わっていき、また、パソコンスキルを向上させただけでなく、事例報告がより具体的で分かりやすい内容に進化。報告会には看護師も参加し、意見交換や情報共有が深まる場となりました。

「自分たちがやろう」主体的にケアの質向上
24年度の研修テーマは「身体拘束低減に関する知識」とし、認知症ケア加算2から1への移行を見据えて、さらなる意識向上を図っています。
昨年11月20日と24日の2日間（夜勤者への配慮のため同じ内容で2回）研修を実施し、看護



2 入院環境・生活動作

- ◆移動 歩行器見守り・独歩歩行補助
- ◆食事 デイルームにて自己摂取。
- ◆排泄 尿道カテーテル挿入中。便意はあるが終日オムツ使用。便失禁した際など、ナースコールの活用あり。
- ◆コミュニケーション 失語症あり。簡単な説明であれば理解可能。
- ◆身体拘束 便失禁した際など、ナースコールの活用あり。車椅子の自走をするため、車椅子からの滑落防止のために車椅子ベルトを使用。単独行動があったため、終日4点柵使用。

【上】昨年11月の研修テーマは「身体拘束低減に関する知識」で、各病棟代表者がスライドを駆使して発表 【下】回復期リハビリテーション病棟による事例発表の内容（スライド）



第1回研修時に実施した身体拘束体験の様子。経管栄養や点滴抜去の防止、認知症などの患者さんの行動が把握しきれない、転倒・転落リスクがあるなど、身体拘束を行なう理由はさまざま



看護補助者会主体で研修実施

身体拘束低減・解除進展に貢献

看護現場から投稿記事

身体拘束低減の取り組み

〈神奈川〉
湘南平塚病院

「済生会交差点」のコーナーでは、全国の済生会病院・施設での看護職・介護職の活躍や特徴的な取り組みなどについて継続的に特集しています。今回は〈神奈川〉湘南平塚病院の看護補助者会の活動について、看護部・主任介護福祉士の鹿島さおりさんをご紹介します。

看護部 主任介護福祉士
鹿島さおりさん

当院が新築移転した2017年7月、介護福祉士で初の主任（筆者）が誕生しました。翌年4月には四つの病棟すべてに介護福祉士の看護補助者主任が配置され、主任4



看護補助者会の活動は研修準備・実施・振り返りや、業務改善に向けた話し合いが中心。月1回会合を開き、自立的に活動することを目指している



筆者の鹿島さん

人で構成される看護補助者会が発足。同会は、安全で質の高いサービスを提供するため、看護職員や他職種と協力しながら業務を進めることを目的として活動しています。
同会が主体となり、身体拘束低減に向けた取り組みを継続して行なっています。このように

看護補助者集合研修で現場での実践を強化

介護福祉士が業務改善や研修発表に至るまで主体的に取り組む病院は非常に少なく、当院の特徴的な活動として報告したいと考えました。

身体拘束低減に向けた取り組みとしては、看護補助者を対象に第1回の研修を19年11月に実施したのが始まりです。患者さんの気持ちに寄り添うことを目的に、参加者全員が身体拘束を10分間体験するプログラムを導入しました。体験後には意見交換を行ない、参加者からは「患者さんの苦痛を実感した」「一つでも身体拘束を減らしたい」という声が多く聞かれました。さらに「カンファレンスが看護師主体で行なわれているため、意見があっても発言する場がない」といった現場の

窮地の母児の命を救う！ 30分以内の娩出を 目指した挑戦

超緊急帝王切開
シミュレーション
静岡済生会総合病院
済生記者
酒井あい



補助者（介護福祉士含む）34人と看護師11人が参加。院内なしこホールで各病棟代表者が4事例の発表を行いました。
一般急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟などそれぞれ役割が

異なり、患者さんの疾患や状態もさまざまのため、どの発表内容にも新たな発見や気づきがありました。例えば一般急性期病棟では、危険予知と、抑制が原因となるストレスのバランスが課題。回復期リハビリテーション

済生記者の投稿
「コーナー」Topics
は「済生」の肝です。2025年1月号掲載の静岡済生会総合病院「グレートAシミュレーション」の詳細を報告してもらいました。

出産は、どんなに準備をしても、赤ちゃんが無事生まれるまでは安心できないものです。当院は地域周産期母子医療センターに指定されており、低リスクの妊婦からハイリスク妊婦まで、また正常児から10



筆者の酒井さん

00グラム未満の超低出生体重児まで、幅広く母児に対応することが求められています。
近年の初産の高齢化や不妊治療の件数の増加に伴い、ハイリスク妊娠が増加。当院でも母体搬送の受け入れ件数や緊急帝王

切開実施件数の急激な増加を認めたため、緊急時の体制づくりを病院として早急に進める必要性がありました。
折しも大きな事象があり、産婦人科病棟の助産師たちからも振り返りをしたいとの声が上が

ちつつあることを実感しています。身体拘束低減は患者さんとの職員の双方にとって重要な取り組みです。当院では今後もこの取り組みをチーム全体で共有しながら、質の高いケアの提供を目指して継続していきます。

っていました。そこで同科の中川裕子・主任看護師が中心となり、23年4月ごろから産婦人科病棟・NICU（新生児集中治療室）・手術室の3部署が連携し、緊急性の最も高い超緊急帝王切開（以下、グレートA）の実施体制確立に向けて取り組みを開始。グレートAとは、胎児の心音低下や前置胎盤からの大量出血など、母児の命に危険があり一刻も早く胎児を娩出しなければならぬ状態をいいます。当院ではグレートA宣言から30分以内に胎児を娩出することを目標としています。

シミュレーションを重ね 具体的な課題を抽出

はじめに、3部署の看護師・助産師など約10人が中心となり、多職種からなるシミュレーションチームを立ち上げました。続

いて、グレートA発令時における各スタッフの初期行動を示すアクションカードを2種類（平日勤・夜間休日）作成し、記載内容について繰り返し検討を

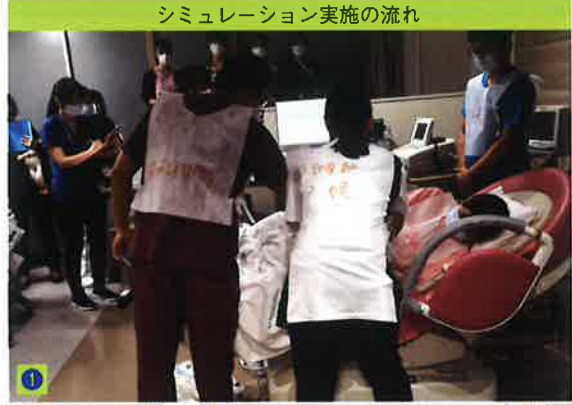
行ないました。
作成したアクションカードの検証を目的に、23年9月12日に産婦人科・小児科・麻酔科の各医師と、看護師や助産師など関

係スタッフ合同の1回目のグレートAシミュレーションを開催。小児科医師がシミュレーションのシナリオづくりに協力してくれるなど、多職種協働での取り

組みとなりました。
実際にアクションカードに沿って行動してみると、項目数が多く迅速に対応できないことが分かりました。そこで、シミュ

緊急時の初期行動の手順が記されたアクションカード

グレートA宣言	NICU・産科病棟・産婦人科外来に配置	NICU・産科病棟・産婦人科外来に配置	NICU・産科病棟・産婦人科外来に配置
1. 助産師・看護師	2. 小児科医師	3. 産科病棟医師	4. 産科病棟看護師
5. 産科病棟看護師	6. 産科病棟看護師	7. 産科病棟看護師	8. 産科病棟看護師
9. 産科病棟看護師	10. 産科病棟看護師	11. 産科病棟看護師	12. 産科病棟看護師
13. 産科病棟看護師	14. 産科病棟看護師	15. 産科病棟看護師	16. 産科病棟看護師
17. 産科病棟看護師	18. 産科病棟看護師	19. 産科病棟看護師	20. 産科病棟看護師
21. 産科病棟看護師	22. 産科病棟看護師	23. 産科病棟看護師	24. 産科病棟看護師
25. 産科病棟看護師	26. 産科病棟看護師	27. 産科病棟看護師	28. 産科病棟看護師
29. 産科病棟看護師	30. 産科病棟看護師	31. 産科病棟看護師	32. 産科病棟看護師
33. 産科病棟看護師	34. 産科病棟看護師	35. 産科病棟看護師	36. 産科病棟看護師
37. 産科病棟看護師	38. 産科病棟看護師	39. 産科病棟看護師	40. 産科病棟看護師
41. 産科病棟看護師	42. 産科病棟看護師	43. 産科病棟看護師	44. 産科病棟看護師
45. 産科病棟看護師	46. 産科病棟看護師	47. 産科病棟看護師	48. 産科病棟看護師
49. 産科病棟看護師	50. 産科病棟看護師	51. 産科病棟看護師	52. 産科病棟看護師
53. 産科病棟看護師	54. 産科病棟看護師	55. 産科病棟看護師	56. 産科病棟看護師
57. 産科病棟看護師	58. 産科病棟看護師	59. 産科病棟看護師	60. 産科病棟看護師
61. 産科病棟看護師	62. 産科病棟看護師	63. 産科病棟看護師	64. 産科病棟看護師
65. 産科病棟看護師	66. 産科病棟看護師	67. 産科病棟看護師	68. 産科病棟看護師
69. 産科病棟看護師	70. 産科病棟看護師	71. 産科病棟看護師	72. 産科病棟看護師
73. 産科病棟看護師	74. 産科病棟看護師	75. 産科病棟看護師	76. 産科病棟看護師
77. 産科病棟看護師	78. 産科病棟看護師	79. 産科病棟看護師	80. 産科病棟看護師
81. 産科病棟看護師	82. 産科病棟看護師	83. 産科病棟看護師	84. 産科病棟看護師
85. 産科病棟看護師	86. 産科病棟看護師	87. 産科病棟看護師	88. 産科病棟看護師
89. 産科病棟看護師	90. 産科病棟看護師	91. 産科病棟看護師	92. 産科病棟看護師
93. 産科病棟看護師	94. 産科病棟看護師	95. 産科病棟看護師	96. 産科病棟看護師
97. 産科病棟看護師	98. 産科病棟看護師	99. 産科病棟看護師	100. 産科病棟看護師



1 妊婦急変。産婦人科医師が到着後グレートA宣言 2 妊婦を手術室へ移動 3 手術室到着。可能な限り早く帝王切開が始まるように準備 4 娩出。グレートAの宣言からここまで18分 5 娩出後、小児科医師が気管挿管（写真はすべて昨年12月実施の3回目シミュレーションのもの）



①②③アクションカードはA4サイズでラミネート加工し、NICU・産科病棟・産婦人科外来に配置。分娩室には拡大して貼り出し、ポケットサイズのものも携帯用に関係部署全スタッフに配布した



若山優子

SAISEI | 2025 MAY 14

令和6年度 済生会生活困窮者支援事業優良事業

支部・施設が行なう生活困窮者支援事業のうち、先駆的な取り組みや継続して行なわれ優れた実績をあげている事業に要する費用の一部または全額を補助し、支援事業の更なる推進を目的とする。

支部	施設名	事業名	交付額 (単位：円)
岩手	北上済生会病院	生活困窮者及び交通手段のない透析患者の送迎	2,500,000



済生会のカーリース制度等で手配した軽トラックで排雪作業

排雪作業は、地域での生活道路への道付け等の除雪のみならず、排雪作業まで対応する柔軟な支援体制を整備



補助金の一部をホイールローダー購入に活用

活動は、厳しい寒さの中で行なわれますが、地域とのつながり、職員同士の協力を通じて、心も体も温かくなる支援事業となっています。今後も雪の状況に応じ、臨機応変に活動を継続し、地域に根ざした生活支援を推進していきます。

スノーバスターズがつなぐ地域の安全と温もり

北上済生会病院は従来の透析患者送迎時の除雪に加え、冬期間、だれもが安心して生活できるように、職員や地域住民が一緒

社会事業士が、高齢者や障がい者世帯が「除雪困難により通院や送迎に支障をきたしている」という地域課題に着目したこと

軽トラックやホイールローダーを活用した排雪作業では、営繕係が事前に現地確認を行い、家を傷つけないよう配慮しながら、職員の安全第一で作業を実施しました。

院して直接お礼を伝える住民の姿も見られました。今回の活動で、除雪作業は即時行動しなければならぬ作業ですが、最も需要がある排雪作業は降雪時だけでなく時間も調整して活動可能であることが分かりました。

〈岩手〉北上済生会病院
地域医療福祉連携室 齋藤 薫



グループワークでは地域と行政含む多機関の関係者が顔を合わせて意見交換し、課題について理解を深める貴重な時間に



割以上が「参加してよかった」と回答。「この問題に先進的に取り組んでいる人の話を聞けてよかった」「地域全体で考えていかなければならないと改めて感じた」といった感想がありました。また、市役所職員からは「具体的な取り組みを同じ圏域の方と共有できたことは大変有意義」との声が聞けました。

インクルーシブ社会の実現を目指して

今回の研修会を高岡で開催することができ、多くの学びを得ることができました。この成功はMSWの努力だけでなく、支部長、院長、事務部長、総合地域連携部長の支援と、そして神奈川県病院の鎌村さんをはじめ

身寄りなし問題研究會事務局の皆さんの温かい協力があつたからこそです。



研修会運営を担った当院の社会福祉5レンジャー。「高岡の『ソーシャルインクルージョンをすすめる隊』として、誰もが安心して暮らせる社会を目指します!」

身寄りなし問題を自分ごととして考える

神奈川県病院地域交流室長 鎌村誠司さん

済生会身寄りなし問題研究会は、済生会の横断的研究グループとして22年12月に発足以来、年2〜3回研修会を行なっています。開始当初の会員数は46人でしたが現在は100人を超え

高岡病院の若山さんが当研究会への参加を機に、昨年、身寄りなし問題を取り上げる医療懇談会を高岡で開催したことがきっかけです(本誌24年11月号掲載)。若山さんから2回目の開催を検討しているとの

話を聞き、当研究会としてもぜひ協力したいと思いました。身寄りなし問題は国全体で考えていくべき大きな社会問題ですが、まずはそれぞれの地域で話し合うことが重要です。当研究会は、そのためのきっかけづくりや場づくりにこれからも取り組んでいきたいと思っています。

とともに、誰一人取り残されない社会を目指すことができます。こうした社会的課題への小さな一歩が、社会全体に前向きな変化をもたらし、インクルーシブな社会の実現につながるものと信じています。

春休みにつき餅つきイベントも！ こども食堂を80人が利用

〈大阪〉泉南特養なでしこりんくう



3月28日、泉南市樽井防災コミュニティセンターでやまのい食堂（こども食堂）を開催しました。昨年9月に開始し、毎月第4金曜日に開催しています。今回は春休みの期間中のため、昼食と夕食の2部制で実施し、約80人が利用しました。メニューは昼夜ともにカレーや牛丼、中華丼などの選べる丼物を提供しました。ボリューム満点の食事に、皆さん満足いただけました。



14時からの餅つきイベントでは、地域の福祉委員の皆さんにもご協力いただきました。子どもや職員、利用者さんも一緒に餅つきを楽しみました。

緒に杵を持ち、「よいしょ！よいしょ！」の掛け声とともに力いっぱいお餅をつきました。できたてのお餅はとってもおいしく、おかわりを希望する声も多く聞かれました。

（済生記者 阪上健介）

継続支援事業所の利用者さんが携わり、売上収益は障害者や水族館の生き物など公共の福祉に



店舗で取り扱われ、300個を売り上げました。

この商品開発の資金には済生会本部のソーシャルインクルージョンおよびソーシャルファーム事業化補助を活用。今後はさらにシリーズを拡大し、地域の保育園や幼稚園を対象に「水族館作りワークショップ」も行っていきます。

（済生記者 土合浩大）

地元企業とのコラボレーションで ソーシャルインクルージョン商品を販売！

北海道済生会

北海道済生会は地元企業のおたる水族館と北海道産品に呼びかけ、新たな土産品を開発しました。

これは水族館の獣医が粘土で原型を製作し、済生会でデーター化、3Dプリンターでフィギュアとして出力し、北海道産品の缶に入れた商品で、「おたる水族館」と名付けられました。

製造には就労継続支援事業所の利用者さんが携わり、売上収益は障害者や水族館の生き物など公共の福祉に

販売を開始した昨年12月以降、5シリーズが完成。小樽市内6

還元される
ソーシャル
インクルー
ジョン商品

コミュニティナースの講座に28人 医療とくらしをつなぐ活動を紹介

〈茨城〉神栖済生会病院



3月3日、3回目の「チーム・コミュニティナース育成講座」を開催し、28人が参加しました。講座の目的は、コミュニティナースとは何かを理解し、その必要性を周知すること。今回は高知県宿毛市・大井田病院で実際にコミュニティナースとして活動している中野知美さんを講師に招き、取

第1回栃木連携士会（仮）を開催 連携士同士の横のつながり強化へ

〈栃木〉宇都宮病院

3月15日、全国済生会地域包括ケア連携士会会長の宇都宮乳児院・荻津守院長、当院MSWの稲見一美課長と大塚

美幸係長、法人外を含めた10人の連携士が参加して「第1回栃木連携士会（仮）」が当院研修室で開催されました。

当日は地域課題や、支援者としての役割について活発な意見交換が行なわれ、会の活動方針について話し合われました。今後は、専門職間の助け合いを促進し、連携士同士のつながりを強化することで地域力を高めることを目標とし、具体的な活動を検討していきます。

次回会議では、さらに多くの参加者を迎えるための正式名称を決定する予定です。稲見課

長は「引き続き、地域包括ケアの発展に向けた取り組みを進めていきます」と話しました。

（済生記者 江口裕紀）



（地域連携課 秋山綾香）

「シングル IRB」への移行と 治験環境の変革を議論

本部共同治験推進室長 大山彰裕



第17回済生会共同治験実務者研修会が3月11日、東京・済生会本部で開かれ、本会病院担当者や治験支援企業ら47人が参加しました。

治験環境の大きな変化に 対応するために

済生会では毎年、共同治験実務者研修会を開催し、病院担当者に対して治験に関連する法改正のポイントや本会で取り組むべき課題を周知することで、被験者の安全性を確保しながら質の高い治験を行なうことを目指しています。

今回の研修会では、「日本の抱える医薬品開発の課題から考える治験環境の変化」をテーマに厚生労働省・医薬品審査管理課の松下俊介審査調整官と、福島県立医科大学附属病院の稲野彰洋特任教授が講演しました。

ドラッグロス解消と 質の向上を目指して

松下氏は「今後の規制改正について（日本の現状と取り組みべき課題）」と題し、日本の治験環境が抱える課題と規制改革の方向性を説明。日本では欧米と比べて新薬承認数が少なく、



松下氏

の別の課題も含め改革が必要であることを提示しました。現行の規制に対し、日本国内複数の病院で実施する治験の一つの審査機関がまとめて被験者の人権や安全性を審査する「シングルIRBの原則化」、自宅や通い慣れた病院で治験に参加する方法「DCT（分散型臨床試験）の運用整理」、「SMO（治験施設支援機関）への監督権限強化」の3点を中心に規制改革が検討されていると報告しました。

倫理審査の枠を超えて 済生会 HRP 策定を提言

続く稲野氏は「米国とアジア諸国の被験者保護」と題し、米国や東アジアの被験者保護プログラム（HRPP）やIRBの

して取り組むべきこと、残すべきレガシーと変えるべきレガシー」をテーマに討議が行なわれ、IRB統一に向けた課題や人事交流の広がりに向けた声など、今後の活動への前向きな意見が多数挙がりました。

IRBとSOP 統一に向けて

パネルディスカッションでは、松下氏、稲野氏、済生会共同治験推進専門小委員会・宮岡弘明委員長と筆者がパネリストを務め、宮岡氏は「制度改正に備えて法人として一括審査する済生会中央IRBへ早めに移行すべき」と強調しました。筆者が「済生会全体での治験実績と動向」を報告し、同委員会で統一標準業務手順書（SOP）の導入が承認されたことも発表。

また、各グループに分かれて「治験環境の変化に済生会と



グループ協議



稲野氏

認証機構、ハーバード大学と大阪大学のHRPPを紹介。本邦におけるHRPPやIRBの国際認証を得ている機関は少なく、

被験者保護や倫理に対する制度設計は遅れており、海外勢と対等になるには国際的な認証の取得を増やすべきと示されました。ポイントである「臨床研究の倫理審査の枠を超える」「被験者の安全性や研究公正に貢献できる全ての活動を含める」「被験者保護を実現する共同作業のた



炭谷茂理事長が済生会共同治験事業の成り立ちや重要性を説明。臨床能力の向上や患者への貢献、診療報酬によらない収入源として病院経営の一助にしてほしいと訴えた



松原了理事長が治験に関する法改正の実行性を話し、シングルIRB移行への対応を求めた

左から筆者、宮岡氏、稲野氏、松下氏。パネルディスカッションでは「シングルIRB」への関心が高く、多くの質問と議論が集中した



1924 (大正13) 年6月創刊の「済生」が発行100年を迎えました。「済生」のあゆみを紹介します。

昭和50年代 (1975～84年)、済生会学会では写真と書道のコンテストが開かれていました。

当時の入選作からは50年前の人々が何に心をひかれていたのかが垣間見えます。

(株) 白橋 西林芙美・本部広報課 河内淳史



コンテストの終わり

済生会学会での写真・書道コンテストは数年続いたものの、1980年代中盤には開催されなくなっていたようです。会場の広さの問題、展示する労力、家庭用カメラの普及による写真趣味の一般化などが原因と推測

されます。

しかし、インターネットもスマートフォンもない時代、学会展示や「済生」掲載などで、広く皆に自分の作品を見てもらえた時の喜びは格別だったことでしょう。

今回の掲載作品に氣に入ったもの

「済生」が創刊100年! — 済生会の歴史が分かる“読者プレゼント”

機関誌「済生」が昨年6月に創刊100年を迎え、「済生」のあゆみを紹介しています。そこで読者の皆様に済生会の歴史をより深く知ってもらうために、「済生会物語」「続済生会物語」「創立100周年記念誌ダイジェスト版」をセットにして300人にプレゼントいたします。先着順でお1人1セット。所属施設に発送します。ご希望の方は送付先住所・所属施設・部署・氏名を広報課 (koho@saiseikai.or.jp) までご連絡ください。



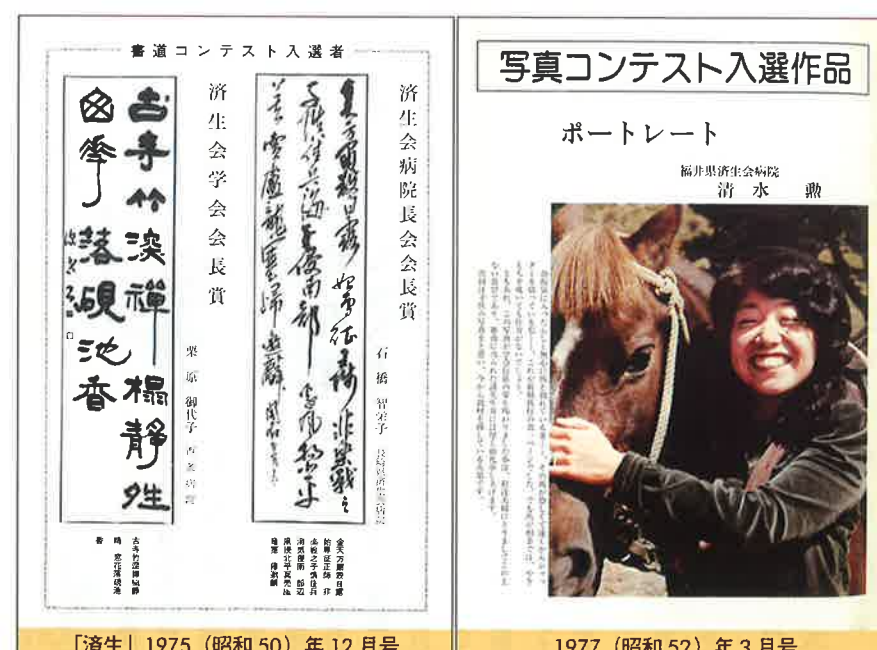
がありましたら、50年の時を経て、作者と心を通わせた瞬間が生まれたと言えるかもしれません。

次号は「終戦後…各地の済生会から届いた病院便り」を紹介します。

写真・書道コンテストのはじまり

1975 (昭和50) 年10月、福岡市で第28回済生会学会・昭和50年度総会が開催されました。

の連帯を増やすことが目的なので、日常の作品で気軽にご応募してください」とも記載されています。理事長賞など各種賞状があったようですが、賞品については詳細な記録が残っていません。



昭和の写真・書道コンテスト

当時の福岡総合病院院長・土屋昌武氏が「福岡学会に來福できなくとも参加する方法はないか」と強く要望した結果、全国の職員から作品を募集することになったそうです。



その学会・総会開催を特集した『済生』1975 (昭和50) 年12月号では、初めての試みとして各方面から注目されていた書道・写真のコンテストは、甲乙つけがたいプロ級の作品が会場



ぬくみず・よういち 1964年生まれ、宮崎県出身。88年から94年まで劇団「大人計画」に在籍し、舞台を中心に活動。94年、俳優・竹中直人の冠バラエティー番組に出演したことをきっかけに、テレビ出演の機会が増える。舞台、映像、ナレーションと形を問わず数多くの作品に出演する傍ら、バラエティー番組にも出演し、幅広い世代から愛される人気者に。2013年、出身地である宮崎県都城市の観光大使「みやこんじょ大使」に就任。17年に「第52回紀伊國屋演劇賞個人賞」を受賞。

「面白く脚本を読み進めました
が、最後の審判に立ち会うとい
う……これは、責任重大な役だ
なと思いました」。主演の大地
さんは、台詞の細部にこだわっ
たという。「子役ではなく大地
さんが回想を演じることについ
て、どういうやりとりがあれば
お客さんが納得するか、とかね。

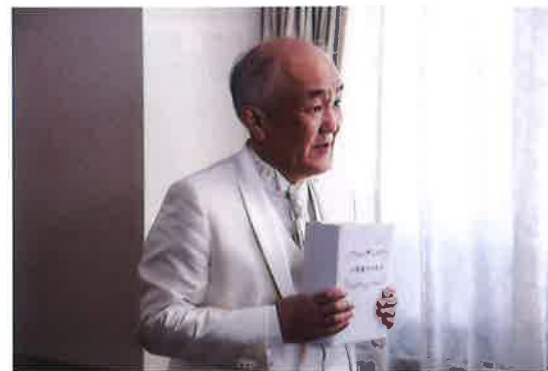
いい方向への変更に、妥協なさ
らなかったです」。

コシノアヤコさんについて、
「私の人生は面白くなきやいけ
ないという、信念を全うした方
だと思います」と温水さん。自
身の半生については、「今も役
者をやれていることがすごく
幸せ」と繰り返す。「32歳で役

者一本になる決断をしました
が、奥さんには苦労をかけまし
た。そんな中、竹中直人さんが
目に留めてくださり、深夜のコ
ント番組や映画に出してくださ
った。明石家さんまさんと出会
い、バラエティー番組に出るこ
とに。『あの出会いがなければ、
違う人生を歩んでいたかもしれ

ない』と思う出会いがたくさ
んあります。僕は運がよかつ
た」。

役者としての軸は舞台。「で
も映像も好きですし、旅番組
をやるのも楽しいし、どれが
一番というものではありません
。いろいろ使っていただけ
るのすごくうれし、ま
た呼んでもらえるよう
、いい仕事をしたいです。
今年で61歳、何歳まで
役者ができるかなと考
えるようになりました。
役者に定年はないです
から、台詞が覚えられ
る限り、気力がある限
り、続けられたらと思
います」。



©「ゴッドマザー〜コシノアヤコの生涯〜」製作委員会

『ゴッドマザー〜コシノアヤコの生涯〜』

主人公は、日本のファッション界に革命をおこし、昭和から平成を駆け抜けたデザイナーの「草分け的存在」であり、コシノ三姉妹の母としても知られるコシノアヤコ。病室で危篤状態となったアヤコは、天国行きか地獄行きかの審判に立ち会う天使とともに、自らの生涯を振り返る。果たして、どんなときも逞しく好奇心旺盛に生きたアヤコの行く先は。コシノアヤコを演じるのは、本作が映画初主演となる大地真央。15歳から92歳までのアヤコを演じ分ける。

■監督：榎本次郎 ■脚本：池田テツヒロ

■出演：大地真央、黒谷友香、鈴木砂羽、水上京香、浅田芭路、永尾柚乃、江原璃莉、木村祐一、温水洋一、市川右團次

2025年5月23日（金）全国公開

役者でいられることが幸せ

台詞が覚えられる限り、役者でありたい

温水

洋

Yoichi
Nukumizu

映画『ゴッドマザー
〜コシノアヤコの生涯〜』にて、
大地真央さん演じる
コシノアヤコさんの
人生の審判に立ち会う、
天使を演じる温水洋一さん。
幅広い役どころを演じながら、
どれも「温水さんにしかできない」と
観る者を唸らせる
役者・温水さんの、
芝居への思いと
半生に迫りました。

Text：新亜希子

Photos：安友康博



Vol. 180



口福につぼん

吉井省一

和風・洋風・中華風の大皿料理を楽しむ宴席料理です。この卓袱料理には、守るべきお約束があります。まず、女将さんの「お膳をどうぞ」の挨拶から宴を始めるということ。これはお客様のために鯛を一尾使いましたという接待のセレモニー。宴席の挨拶や乾杯より先に、

私が作詞している歌謡曲のジャンルで多くの名曲の舞台となってきた街のひとつに、長崎があります。どこか異国情緒が漂う街並みは、ドラマチックな歌詞を書くのにぴったり。私も訪れる度に、新たなインスピレーションをもらっています。

西洋や中国から流れ込んできた文化が、日本人好みに程よくブレンドされている風土のせいでしょうか、魅力ある観光地としても人気を集めています。もちろん、長崎は美味しい食べ物が多いことでも有名。今回はそんなグルメタウン長崎で愛されてきた「おごっつお（長崎の方言で「馳走」）です。どうぞご期待ください。

お膳と呼ばれる碗（鯛の身やお餅入りのお吸い物）をいただきます。それから、円卓で食するという。これは上下の隔たりなく和気藹々と食事を楽しんではしいという想いから。取り箸でなく自分の箸で料理を取るのも、水臭いことは抜きという心使い。また、取り皿は1人2枚ずつ。こうしたルールを守ると、長崎っ子の仲間入りができたようになり、ちょっとしたうれしいものです。

92

東坡煮・角煮めし

《料亭御宿》坂本屋 長崎県長崎市



二代目当主が長崎の宿で初めて卓袱料理に取り組んだ。東坡煮は地元の方が鍋を抱えて買いに来るほど人気に

この卓袱料理のメインディッシュが、豚の角煮。今回ご紹介する「東坡煮」は、明治27（1894）年創業の老舗坂本屋が商標登録したオリジナルです。食材となる豚肉は、皮付きの三枚肉。皮付きなのは、長時間煮込むので煮崩れしないように。



文化人たちにも愛されてきた、明治27年創業の坂本屋。宿帳には東郷青児や山下清の記帳も残っている

使う醤油は、長崎で定評ある「チョーコー醤油」の坂本屋仕様である特別ブレンド。

こだわりの素材を、四代にわたり受け継いできた元ダレと職人技で丁寧に仕上げていきます。

とろとろホロリの旨みは、ご飯との相性もぴったり

みごとに照りつやつやと光る豚肉を目の前になると、もう待ちきれません。黄色いカラシも食欲をそそってきます。いざ、箸を入れてみるとスッ



[左] おこわ仕立ての角煮めしは熟練の職人がひと釜ずつ丁寧に手作りしている [右] 全国屈指の鱧の漁獲高を誇る長崎。例年6～8月は取れたての新鮮な鱧を使った鱧しゃぶ中心の会席料理に人気が集まる



豚肉の旨みを余すところなく堪能できる東坡煮（左）と、暮れの繁忙期に板場のまかない飯として生まれた角煮めし（右）。長崎の食文化を語る上で欠かせない美味がここにある



と切れる柔らかさ。口に入れるやいなや、舌の上ではろりとろけて、豚肉の濃厚な旨みがジュワッとおふれ出し、口いっぱいになり広がります。

長時間茹でることで余分な脂が抜けたコクのある上品な味わいは、卓袱料理を代表する不動の四番バッターという感じ。

青菜と一緒にご飯にのせて井にしたり、ラーメンやカレーのトッピング、チャーハンの具にしても美味。もちろん、ビールや焼酎だって進んでしまうはず。ここで、まかない飯として生まれた「角煮めし」へ。東坡煮の旨みたっぷりの煮汁と椎茸のだし汁で炊いたご飯に、ほぐした東坡煮とごぼうやニンジンなどを混ぜ、その上に東坡煮の角切りが載っています。

ひと噛みする度に、肉の旨みとともに、ご飯ひと粒一粒のすき間に染み込んだ煮汁で、口福度は増すばかり。ついつい手が伸びて食べ過ぎてしまいうそ。

今でも昔ながらの製法で、大鍋に落とし蓋をして、ことごとじっくり煮込むという「東坡煮」。今度、長崎を訪れた際は、ぜひ坂本屋の卓袱料理の一品としていただきたいと思いました。



東坡煮・角煮めし詰合せ
[東坡煮 65g × 4個・角煮めし 130g × 4個]
4,482円（税込・送料別）
賞味期限……東坡煮：常温60日間、角煮めし：冷凍60日間

お取り寄せ・お問い合わせは

料亭御宿坂本屋

〒850-0037 長崎県長崎市金屋町2-13

フリーダイヤル：0120-26-8210

ホームページ：https://www.shop.sakamotoya.co.jp



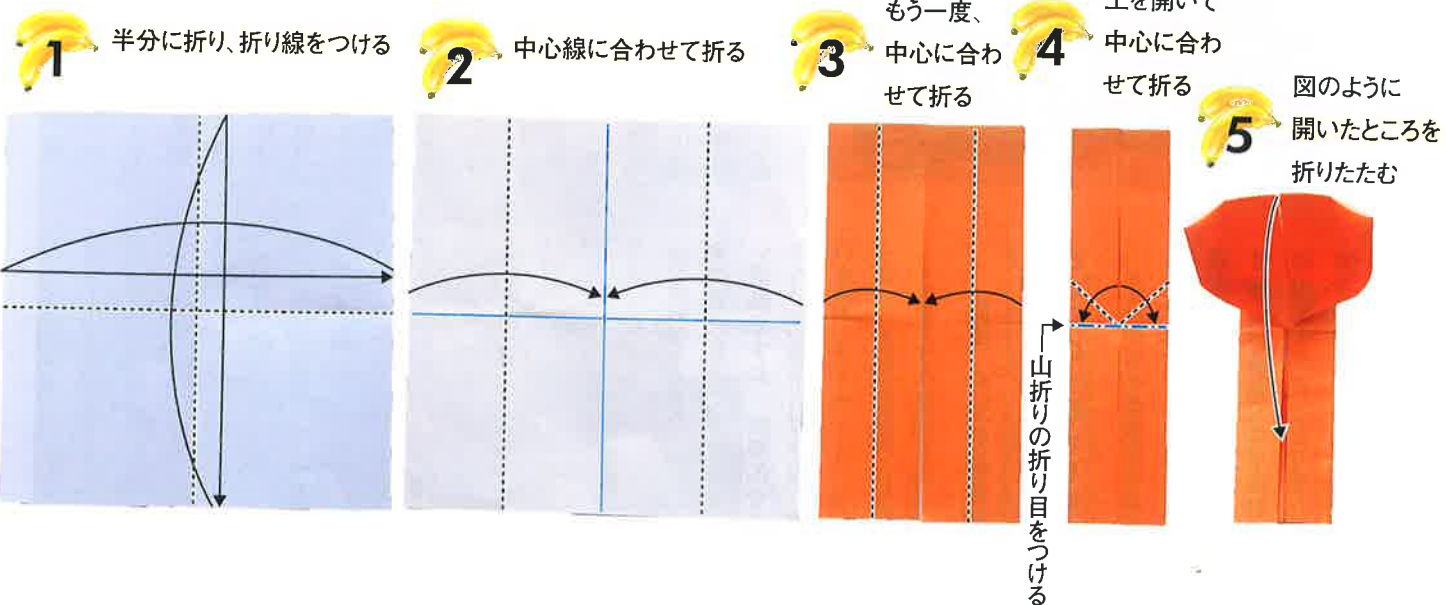
てるてるぼうずと なかよしネコちゃん

作品 いまいみさ

あした天気にな〜れ!



ねこ



てるてるぼうず



だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ



【いまいみさ】

手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



〈富山〉なでしこ保育園の園児たちが富岩運河環水公園にお花見散歩に出かけました。満開の桜ににっこり！春を全身で楽しみました。詳細は P60をご覧ください

topics

大阪・関西万博で 子どもメディカルラリー

〈大阪〉千里病院

4月14日、「子どもメディカルラリー in EXPO 2025」を大阪・関西万博の会場内で開催しました。

全国子どもメディカルラリー協議会と、開催経験のあるスタッフ（済生会では当院、岡山済生会総合病院）の協力により実現したもので、「いのち」の尊さを次世代の子どもたちへ伝えることが目的です。心肺蘇生法や応急手当を広めるとともに、世界中の医療関係者にも関心を持つてもらい、子どもメディカルラリーの普及を目指しました。胸骨圧迫をゲームやレース形式で楽しく体験できるプログラムには、海外の子ども（全体の46%）を含む655人が参加。全国から集まった57人のスタッフからも「貴重な経験ができた」との声が多く寄せられ、スタッフ間のネットワークやつながりが深まったと実感することができました。



〈愛媛〉今治老健希望の園 大規模な山火発生！ BCPの大切さを実感

3月23日、愛媛県今治市で大規模な山火が発生しました。鎮火宣言まで22日間もの日数を費やし、県内では平成以降最悪の規模の火災となりました。今回の災害は局地的で、当園

（本部広報課 杉山 菜央）

は被災場所から離れていましたが、近隣道路の通行止めや停電に見舞われ、利用者さんや職員の自宅が避難区域に指定されるなど、当園も多大な影響を受けました。

入を実施。スケールメリットと効率的な医薬品交渉活動において一定の効果を得ることができました。

より厳しさを増す医療・福祉の環境に対応するため、24年4月には支部購買・契約センターを立ち上げ、薬剤部長会とともに医薬品共同交渉・共同購入を実施。卸会社と医薬品メーカーへの共同交渉等に関する説明会の開催や、単品単価交渉を行な

いました。その結果、前年度とほぼ同水準の値引き率を引き出すことができました。

（済生記者 清水 康貴）

特養なでしこ香川

創立20周年の節目に 新施設長が就任

平成17年に開設した当施設は、このたび創立20周年を迎えることができました。

この記念すべき節目に新たな力が加わりました。4月1日、泉川雅俊さんが新たな施設長に就任。これまで施設運営を支えてきた北原岳史事務長とともに新たな体制を発足し、より一層利用者の皆さんに



18年前に利用者さんからいただいた桜の前で。後列左が泉川施設長、右が北原事務長



当園では、対象地域に住する利用者さんとご家族の被災状況とともに利用の意向を確認。ダイヤでは送迎ルートの変更や利用時間の短縮などを行ない、皆さんが安全に帰宅できるように調整しました。また、拡大していく被害の状況に不安を感じる利用者さんに対して、メンタルケアを行ないました。

事業継続計画（BCP）の大切さを改めて実感する機会となりました。

（済生記者 濱本 佳代）

神奈川県済生会

医薬品共同交渉等を推進 業務効率化や専門性向上も

神奈川県済生会は、管下6病院の各薬剤部門責任者（薬剤部長会）と共同して、2023年度に医薬品共同交渉・共同購



支部・薬剤部長会の共同交渉関係者一同

無事故・無違反チャレンジ 2チーム達成

独立行政法人自動車事故対策機構岡山療護センター

当センターでは、岡山県や岡山県警察などが合同で主催している「無事故・無違反チャレンジ200日」に継続的に挑戦しています。

これは1チーム10人で200日間を無事故・無違反で過ごせるか挑戦する企画で、毎年6月15日～12月31日の200日間行なわれます。昨年の参加者は約5000組・5万人にのびりました。

当センターも数年前から1チームで参加してきましたが、プレッシャーを感じるのか不参加の意思表示をする人も。それでも「自動車事故に関わる職場で働いている私たちだからこそチャレンジしよう」と説明して回り、昨年は2チーム20人を集めました。

結果は、参加した2チームとも見事達成！3月1日付で表彰状と景品が届きました。今年ももっと多くのチームで参加し、チャレンジを達成したいと思っています。

（事務長 四木和之）

〈鳥取〉境港総合病院 新型インフル発生想定で 空港検疫措置搬送訓練

広島検疫所米子空港出張所で新型インフルエンザ感染症患者の発生を想定、3月3日に、患者さんの隔離・当院への搬送・入院といった一連の訓練が行なわれました。

20人が参加し、当院では患者さんが空港から搬送され当院感



した上で感染防止手順を遵守し、本番さながらの条件で進められました。

訓練後には検疫所、保健所など各関係機関との意見交換が行なわれ、佐々木祐一郎病院長も参加。「対象者が複数の場合はどうするか」「さまざまな病状に応じた対応が必要」など活発な質問、意見が交わされました。今後も関係機関との連携強化を図り、このような状況がいつ発生しても対応できるように備えていきます。

（済生記者 亀尾美子）

〈新潟〉三条療育サポート センターひまわり

ママありがとう 大好きだよ

3月12・13日、児童発達支援と放課後等デイサービス事業を行なう療育サポートセンターひまわりで修了式が行なわれ、子どもと保護者計5組が参加しました。

式で名前を呼ばれると「はいっ」と元気に返事をして、ステージへと向かう子どもたち。西川貴司副センター長から一人ひとりに修了証書が手渡されま

した。少し緊張した表情を見せながらも、子どもたちは「運動が楽しかった」「ボウリングが楽しかった」など、それぞれの思い出を一生懸命に発表してい



ました。
式の最後には、子どもから保護者へサプライズで手紙のプレゼント。「ママありがとう、大好きだよ」と、感謝の気持ちを伝える心温まる場面もありました。

（済生記者 樋口拓也）

福井県済生会病院 職員の健康づくりを推進

中小企業が多く女性の就業率が高い福井県では、従業員の健康管理を経営の支援として捉え、戦略的に実践する「健康経営」への取り組みが期待されています。

「ふくい健康づくり実践事業所」認定制度は、働き盛り世代の健康づくりを促進することを目的としており、これまでに県内



130の事業所が認定を受けています。当院は2019年に初めて認定され、毎年更新。今年も3月21日に認定されました。

当院で職員の健康増進に取り組んでいる看護師の細川清子さんは「人事課の体制変更により、これまで以上に手厚いサポートを実施していきたい」と意気込みを語っていました。

今後も、職員だけでなく地域住民の皆さんの健康も維持していけるよう、ソーシャルインクルージョンの視点を大切にしなが

（済生記者 橋本来林）



〈岩手〉陸前高田診療所 鎮魂の思いを込めた黙とう

東日本大震災から今年で14年目となります。3月11日は特別な思いがよぎる日でもあり、被災された方たちへ向けて鎮魂の思いを込めて、今年も当診療所職員7人で黙とうを捧げました。一方で、患者さんからは今年もお見舞いの言葉や励ましの言葉



をいただきました。

今年は2月下旬から大船渡で大規模な山林火災が発生。自衛隊のヘリ拠点で陸前高田市にあり、早朝から活動している様子を見ながら震災時のことを思い出しました。全国規模での消火活動の協力に対し感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の件にならない、災害対策・対応にはより一層の活動充実を図っていききたいと思います。

〈済生記者 高橋恵美子〉

〈福井〉ぼつかばか園 うれしかったのしいなまつり

福井県済生会病院の院内保育所ぼつかばか園では3月3日に



ひなまつり会を開催し、36人が参加しました。ひなまつりは女の子の健やかな成長を願う行事ですが、当園では男女の区別をせず、皆が元氣いっぱい楽しく育ちますようにとお祝いしました。

「うれしいひなまつり」の曲に合わせてパネルシアターをする、身体をゆらゆらさせてリズムをとったりして楽しむ子どもたち。手作りのひなさまの飾り付けでは「どこに貼ろうかな」とスペースを探して、剥がれ落ちないようにぎゅつぎゅつと力を込



めて貼ってくれました。完成すると「かわいい♡」と口々に満足そうでした。
また一年、健やかに育ってくれることを願っています。
〈院内サービス課 獅子原遥香〉

〈熊本〉済生会グループホーム 並建ホーム消防訓練

3月28日に済生会グループホーム事業所の並建Ⅰ・Ⅴ番館



で消防訓練を実施し、利用者さん26人と職員5人が参加しました。

グループホームの消防訓練は、14のホームを三つにグループに分けてそれぞれ年2回実施して

います。

今回は居室で過ごしているときに、突然火災が発生したという想定で行なわれましたが、スタッフの誘導に従い、皆さん落ち着いて真剣な表情で避難していました。

その後、反省会で改めて避難時の注意事項や避難場所の確認を行ない訓練終了。今後も練度を高め、安心して暮らせる住まいにしたいと思っています。

〈支援員 山下賢一〉

〈愛媛〉小田特養緑風荘 満開の桜に囲まれて

当施設は四方を桜の木で囲まれています。4月1日に利用者



さん17人と職員6人でお花見をしました。

あいにくの曇り模様で、少し肌寒さを感じる気温でしたが、利用者さんは終始笑顔で、桜の花と春の空気をたっぷり堪能できたようです。

「桜がよけ咲いてきれいやな」「外の風が気持ちいい」「雨が降ったら桜が散ってしまわんか心配やな」と満開の桜を見ながらそれぞれの感想がこぼれました。

満開の桜の中、新年度を迎えることができ、新しい職員と共に気持ちの良いスタートを迎えることができました。これから笑顔あふれる施設でありたいです。
〈済生記者 富岡優衣〉

〈神奈川〉横浜市東部病院 65人の新人看護師が修了

3月28日、当院で看護部新人修了式を行ないました。当院での1年目を終えた新人看護師65人が修了証を授与されました。式には、新人看護師のそれぞれの配属先の先輩職員が多く集まり、新人看護師研修プログラム修了証を渡される様子や記念写真を撮影するなど、にぎやか



で熱気にあふれていました。
渡邊輝子看護部長は新人看護師たちに向けて「泣いたり笑ったりいろいろあった一年だったと思いますが、皆さんの成長ぶりを感じてうれしく思います。職員の半数は看護師であり、私たちが横浜市東部病院をつくっているという自負を持って、楽しく明るく努力し続けられる看護師にしましょう」とねぎらいの言葉とエールを送りました。
新人看護師の皆さんのますますの活躍を応援しています。
〈済生記者 荒木愛美〉

topics



みなながら春の雰囲気を満たしました。
皆さんからは「手作りの桜餅がとってもおいしかった」「食堂が明るい雰囲気になった」とのうれしい声が寄せられました。
(済生記者 丹 秀樹)



市内在住の中学生が職場体験のため来院した昨年7月の出来事です。その中学生は看護師や研修医と対談した際、日勤者と夜勤者の職員の区別が分かりにくいという看護師の意見を受けて、シフトが一目で分かるバッチ制作の企画を提案してくれました。
3月には実際にバッチを制作。日勤は「オレンジ」、夜勤は「ブルー」をキーカラーに生徒が手

山口総合病院 職場体験の中学生から シフト可視化の提案

3月13日、華王殿で令和5年度採用研修医臨床研修修了式を行いました。管理職、指導医、指導者、1年目研修医、事務職、総勢47人に
見守られる中、清水敦哉病院長から一人ずつ名前を呼ばれ臨床研修修了証と記念品を授与されました。
この2年間、いろいろなことがあったと思いますが、当院での臨床研修期間中に学んだこと、



8人が臨床研修修了 それぞれが新たな道へ

3月26日、「春のお茶会」を施設内の食堂で開催し、42人の入所者さんと楽しいひとときを過ごしました。
当日はまず入所者の皆さんに、ピンクや水色、黄色と色とりどりの紙を使用してペーパーフラワー

(総務課 中島朋子)

〈三重〉松阪総合病院

作りし、とてもすてきなデザインに仕上がっていました。
今後、このバッチを活用してシフトを可視化することでコミュニケーションを円滑にし、働

きやすい職場づくりを目指していきたいと思っています。
(看護部 副看護部長 萬野知代子)



〈大阪〉泉尾特養大正園 新園長の力強い抱負

4月1日付で鵜瀬智美さんが新園長に就任しました。
3月まで泉尾病院で副院長兼看護部長を務めた鵜瀬園長は「利用者さんにとって良い施設であるために、職員の意見に耳を傾け、顔の見える風通しの良い関係づくりに取り組み、働きやすい職場環境を構築していきます。地域に求められる安心と温かさを提供できる施設づくりに努めます」と抱負を語りました。
鵜瀬園長の温かい笑顔と力強い言葉に、大正園の発展への期待が高まります。
(済生記者 徳原健治)

〈熊本〉しらふし子ども園 緊張と笑顔の入園式

4月5日に入園式を行ないました。新入園児33人を迎え、今年度は177人でのスタートです。
初めての場所、見なれないたくさんの人たちに緊張している新入園児の姿がありました。中には少しうれしそうにする子



〈山形〉養護(盲)老人ホーム 山静寿 春のお茶会を彩った 手作りペーパーフラワー

3月26日、「春のお茶会」を施設内の食堂で開催し、42人の入所者さんと楽しいひとときを過ごしました。
当日はまず入所者の皆さんに、ピンクや水色、黄色と色とりどりの紙を使用してペーパーフ



ワーを作っていました。
自分で作ることが難しい方には職員が協力して一緒に作成を進めました。作成した花は食堂全体に飾り付け、春らしい明るい雰囲気になった。その後、職員が手作りの桜餅を提供し、お茶を飲

〔福岡〕 特養むさし苑
介護福祉専門学校の
卒業式に来賓として出席

3月7日、平岡介護福祉専門学校の卒業式に来賓として招待され、田中俊太施設長と筆者が出席しました。これは当苑創立43年目にして初めてのことで、当苑の他にも八つの施設が参加し、各施設の紹介後、当苑からは田中施設長が高齢者福祉に携わることの重要性や社会貢献の大切さについてメッセージを



贈りました。

卒業生たちは式典で自らが学んだ知識を生かし、地域社会に貢献することを誓い、希望に満ちた未来を見据えている表情が印象的でした。

27人の卒業生の中から、2人を4月1日から当苑の介護員として迎えます。定期的に学校訪問を行ない、新たな職員になる生徒たちと出会えたことに感謝し、来年も新たな門出に立つ姿を見届けるために精進していきます。

〔済生記者 岸川涼二〕

〔石川〕 金沢病院

イオンで健康チェック

昨年7月のイオンモール白山との協働イベントに引き続き、3月23日に病院近隣にあるイオンタウン金沢示野で協働イベントを初開催しました。

今回のイベント「健康チェック」では、当院の理学療法士によるロコモチェック、診療放射線技師による健康度測定、保健師による健康相談を行ないました。

ショッピングセンターで買い物ついでに気軽に寄っていただ



けるようなイベント内容で、約1時間で30人ほどが来場。「ロコモチェックをして、思いのほか骨や筋肉が衰えていることを知ることができてよかった」との声もいただきました。

今後このように協働し、地域の皆さんの健康増進につながるイベント開催に向けて取り組んでいきたいと思っています。

〔経営企画調整室 五十嵐哲郎〕

〔三重〕 明和病院

医療・介護・福祉を司る

この春に入職した経営マネジメントスタッフ（事務総合職）

り組みを強化していきます。また、施設の新たな象徴として新ユニホームを導入。ポロシャツの胸元には済生会のなでしこの紋章を、背面には「SAISEI KAI」の文字をあしらひ、組織の誇りと理念を表すデザインとなっています。

これは、職員一同が一丸となって、福祉の現場で尽力し続ける決意の表れでもあります。これからも利用者の皆さんが安心して過ごせる環境を提供し、地域福祉の発展に貢献していきます。

〔済生記者 日高 純〕

〔三重〕 明和病院

ウォーキングイベント開催
イオン明和で健康講座も

4月16日にイオンモール明和で開催された「モールウォーキング」に参加しました。健康的なライフスタイルを実現するための取り組みの一環で、イオンモール館内に設定されたコースをウォーキングします。

当日は約20人が集まり、にぎやかなウォーキングとなりました。明和グループからは西出友紀管理栄養士と水谷美樹管理栄養士が参加しました。

7人は、さまざまな事業に携わるための準備として、4月は各部署をローテーションで回ります。



正しい知識を身に着けることで、患者さんやご家族が車椅子の操作方法や取り扱いに困っている際に、救いの手を差し伸べることが出来ます。事務総合職であっても、医療・介護・福祉



養士が参加し、「元気に過ごす食事のポイント」について健康講座を開催。質疑応答では参加者から「卵は1日何個まで食べていいの」など日常生活にまつわる疑問が寄せられました。参加者が健康に対する意識をより高めていただく良い機会になりました。

今後も毎月第3水曜日に開催をします。皆さんの参加をお待ちしています。

〔総務課 山本実千瑠〕



新名称で新たなスタート
ユニホームも刷新

〔神奈川〕 横浜金沢若草園

の事業を司る者として身に付けておくべき必須のスキルです。

〔総務課長 山田範子〕

当園は今年創立60周年を迎え、新たな歩みを進めるため4月1日から「横浜金沢若草園」に名称変更しました。

これまで多くの方々に支えられ、地域に根差した福祉活動を展開してきました。この節目を迎えるにあたり、私たちは改めて初心に立ち返り、より良い支援を提供するための取

〈愛媛〉今治老健希望の園 7人が永年勤続表彰

4月4日、施設運営に尽力してきたスタッフを讃える永年勤続表彰を行い、勤続20年の3人、勤続10年の4人が表彰されました。

表彰された職員からは「これまでを振り返るいい機会となりました」「これからも、今まで力を貸していただいた方々の思



いを大切に頑張りたい」「入社当時、感じていたこと、大切にしていたことを思い出し、今後努力していきたい」といった声がかかれ、これからの仕事への熱意も見せてくれました。

スタッフたちがこれまでの取り組みを振り返り、また新たな気持ちで日々の業務に取り組むきっかけになったと感じました。

(済生記者 濱本佳代)

〈大阪〉軽費老人ホーム ケアハウスつづじ荘

防災ヘルメット寄贈に感謝

3月6日、NTTデータグローバルソリューションズから「IZANO2」と書かれた大きな段ボールが5個、当荘に届きました。折りたたみ防災ヘルメットを利用者さん・職員分の45個、ご寄贈いただいたのです。

いつか来る大規模災害に向けて、日頃から防災訓練やBCP計画など万全な備えを……と準備を進めていたところへの思いもよらないご厚意に「やったー」と飛び上がって喜んでしまいました。

これからも入居者さんの安全確保のために知識と意識を高め、

このヘルメットのように固い決意をもって災害に備えていきたいと思えます。今回の温かいご支援は、有事の際にきつとその一翼を担ってくれることでしょう。

(生活相談員 安達麻由子)

〈新潟〉特養長和園

ボッチャやカラーリングで 新卒職員が親睦深める

当園では新卒職員3人を対象に、3月27・28・31日の3日間にわたり「新採用職員研修」を実施しました。

研修は新採用職員同士の交流や親睦を深めることを目的としています。また、各部署長からの事業所の説明や法定研修を通



じて、施設の運営についても理解を深めてもらいました。

さらにユニバーサルスポーツの一つであるボッチャやカラーリングを実施。一緒に体を動かすことで緊張感がほぐれ、笑顔が見られる場面もありました。

先輩職員と対戦し「なかなか難しい!」「がんばれー!」との声がかかれ、一体感も生まれました。

4月から同じ法人の一員として一緒に働くことを楽しみにしています。

(済生記者 布施優子)

〈茨城〉水戸済生会総合病院 医学生向けセミナーを 5年ぶりに実施

3月15・16日の2日間、コロナ禍で開催を見送っていた水戸医学生セミナーを5年ぶりに開催し、全国の大学から13人が参加しました。

このセミナーは救急における迅速な初期対応の重要性を理解することを目的としており、1

日目はJATRECやMCLSのエッセンスの講義や実技研修があり、2日目にメディカルラリーを行います。

今回のメディカルラリーは、



〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑 あなたの心臓は大丈夫?

3月15日、にぎたつ苑多目的ホールで第10回済生会在宅医療市民フォーラムを開催し、約100人が参加しました。

愛媛県の心臓病死亡率は全国的にも高いことから、松山病院循環器科・渡辺浩毅医師に「あなたの心臓は大丈夫?」と題して講演してもらいました。健康

寿命を伸ばすために、健診受診率を上げて早期に治療を開始することが重要だと啓発しました。

続いて、同院泌尿器科・塩出涼医師がロボット手術の歴史、



現状、今後について講演。医療の進歩に明るい未来を感じました。

そのほか、血圧測定や糖化測定、骨密度測定、血管年齢測定を実施。10回記念の紅白饅頭と、テーマに沿って減塩味噌汁や減塩醤油のプレゼンもあり、大盛況に終わりました。

(訪問看護ステーション

管理者 田村美樹枝

topics

緩和ケアセミナー 参加者ら質問続々と

3月30日、小樽病院地域共生

〔北海道〕小樽病院



〔済生記者 樋口拓也〕

しながらも、自身の言葉でそれぞれの思いを語りました。
自分で感極まる新人、それを見てもらい泣きする先輩。先輩からは温かい励ましの言葉とアドバイスが贈られ、看護部の温かさや思いやりが伝わってきました。
この1年を乗り越えたことに自信を持って、4月からは先輩看護師として一層頑張ってください。



〔三重〕介護老人福祉施設 送別会で思わず流れた涙

長きにわたり、当苑の施設長を務めた辻井夕美子施設長が3月31日付で退任しました。当苑の立ち上げから今日まで、施設の発展と職員の成長において尽力してきました。

最後の出勤日となった3月31日はささやかながら辻井施設長を送る会を開催しました。利用者さんや職員から記念品が贈呈され、涙ぐむ人の姿も。辻井施設長は「最後の最後まで明和苑をよろしく願います」と話していました。

4月1日からは森田忍施設長のもとで、職員一同頑張っていきます。本当にお疲れさまでした。

〔明和病院 済生記者

嵐 仁志〕

〔島根〕老健高砂ケアセンター 春を感じるお花見弁当

桜咲く4月3日、季節に合わせてお花見弁当を作りました。食材価格の高騰もあり豪華にはできませんが、いつもの食事も



お弁当箱に詰めるとあら不思議……「おいしそう!」と入所者さんや利用者さんのテンションが上がります。

食事内容や形態が人によってさまざまのため、115人分をお弁当箱に詰めるのは大変ではありますが、皆様が季節を感じられるように、笑顔になれるようにとの思いを込めました。

入所者さんや利用者さんは「おいしいね」と言いながら食べてくださいました。

施設内から見える桜もきれいに咲き、皆さんの心を和ませていて、春の訪れを感じる良い一日となりました。

〔済生記者 木下 英〕



〔滋賀〕小規模多機能型居宅 介護事業所済生会なでしこ 桜の下でお誕生日会

栗東

〔広報室長 松尾寛志〕

アチームであると紹介しました。質問もかなり踏み込んだ内容のものが多く、実際に当院の緩和ケアを受診しようか迷っている人の参加が多かった印象でした。

4月5日、利用者さん15人とスタッフ6人で、利用者さんの誕生日のお祝いを施設の外で行

〔介護福祉士 宮下達也〕

誕生日を迎えた利用者さんはお花が好きな方で、きれいな桜の下でお祝いしたらとても喜んでくれました。利用者さんとは「来年もまたここでお祝いしようね」と早くも来年のお誕生日会の約束をさせてもらいました。



〔新潟〕三条病院 私が大切にしている看護

2月28日にフォローアップ研修を行ない、新人看護師3人が参加しました。

前半は、新人と主任がグルー



ブワーク形式で「成長した自分の振り返り」と「2年目への目標（課題）」を共有しました。後半は看護部長や師長が加わり、フォローアップ研修の集大成として「私が大切にしている看護」をテーマに一人ずつ発表。緊張

17年続くブログ 看護師の日常を投稿

〈東京〉向島病院

当院看護部ホームページ内のブログ「看護師便り」は2008年3月にスタートし、これまで多くの投稿を重ねてきました。昨年度に入職した職員の中には「過去5年分のブログを読みました」という人もいて、大変うれしく感じました。



このブログで

は当院で働く看護師の思いや気づきを当番制で投稿。原則毎月1回ですが、複数回投稿をしてくれる人もいます。毎日忙しく動き回る看護師ですが、ふとした日常の気づきや思いを綴ることは「気持ちのリセット」「当たり前だと思いがちなことへの感謝に気づく」ことにもつながります。

そして、投稿した人にも、投稿を見てくださる人にもハピネスが広がることを願っています。
(看護部長 佐久間あゆみ)

〈北海道〉なでしこキッズクラブ

お友だちと別れ 保育所巣立つ

3月27日、〈北海道〉小樽病院の院内保育所なでしこキッズクラブを3月で卒園する子どもたちのお別れ会が開かれました。この日は園児27人が参加。まず、4月から幼稚園や別の保育園に行く9人が、皆から「がんばってね」と激励を受けました。次に、小学生になる3人が誇らしげな表情で入場し、それぞれが入学する小学校名と、楽しみなことを発表。なんと全員がそろって「算数が楽しみ」と語りました。

記念品を受け取った3人は「いっぱい遊んでくれてありがとう」といっばい遊んでくれてありがとう



とう」とあいさつ。そしてハンドベルで心を込めて「きらきら星」を演奏、「学校に行っても元気に頑張ります」と力強く宣言し、居並ぶお友だちとハイタッチを交わして、慣れ親しんだ保育所を巣立っていきました。
(小樽病院 済生記者 定 淳志)

和歌山病院 市民公開講座・健康相談会 158人が来場し大盛況

3月29日、当院講堂で市民公開講座・健康相談会を開催しま



FUKUI SAISEI PERINATAL

佐藤英志郎さんが講演しました。第二部の健康相談会では各ブースに分かれ、各種健康相談とともに骨密度測定などの健康チェックが行なわれました。公開講座後ということもあり、骨密度測定ブースには多くの来場者が順番待ちをしている姿が見られました。
(済生記者 松元靖寿)

福井県済生会病院 周産期センター インスタグラム開設!

4月1日に当院周産期センターのインスタグラムを開設しました。開設にあたり、インスタグラムを運用している全国の済生会病院の広報担当の皆さんからたくさんのおアドバイスをいただきました。心からお礼申し上げます。今後は当センターの特長や取り組み、そして当院で誕生したかわいい赤ちゃんたちの紹介を通して、「私たちの目指す分娩」について発信し



母児同室について

母親教室

topics

〈石川〉こども園アイリス お花見遠足で兼六園へ

4月8日、毎年恒例の年長児お花見遠足を行いました。
当日は年長クラス10人と保育者2人が金沢城公園、兼六園へ。兼六園までの道中、近江町市場通りや白鳥路などたくさんさんの景色を堪能しながら向かいました。この時期の金沢は、特に県外



やいろいろな国の旅行者でにぎわっています。子どもたちはうれしそうに「わー」と手を上げ、ふれあいを楽しむたくましさも見られました。

満開の桜を「きれいだね」と見て楽しみ、初めて味わうお団子は「おいしい」と保育者や友だちと話し、笑顔も満開に。五感で楽しむことのできた貴重な時間となりました。

同日は3歳未

満児クラスや年少・年中児クラスも園近くの神社や公園まで散歩に出かけ、桜を見て、花びらをひろい、楽しみました。

（済生記者 友屋いつみ）

〈和歌山〉有田病院 連携医の集いに74人

4月3日、「なでしこ連携医の集い」を有田医師会との共催で開催し、46人が参加しました。現在、65医療機関・74人の先生方に当院に連携登録していただいています。

第一部では当院の瀧藤克也院長が座長を務め、日赤和歌山医療センターの金子至寿佳医師が「2型糖尿病患者の心と腎を守



るには「夜間高血圧治療の重要性」について講演。

第二部では当院の伊藤秀一総長が座長を務め、当院訪問看護ステーションの田中裕子看護課長、中務亮整形外科医長心得、金子富美恵耳鼻咽喉科医長がそれぞれ発表しました。

地域の先生方からは「毎年の開催を楽しみにしています」「患者さんのことで直接会って話ができよかった」などの声がありました。

（済生記者 大向伸正）

〈大阪〉野江病院 テーマは「災害と医療」 市民講座に104人

3月17日、城東区民センター・城東スグタクレストホールで「災害と医療」をテーマとした市民公開講座を、城東区医師会、大阪府城東区役所（市民協働課）と共同開催しました。

第一部は城東区役所市民協働課防災担当者による講演「災害にそなえて」を実施。第二部は澤田達・城東区医師会・災害対策委員会委員長が座長を務め、当院消化器外科部長・伊藤鉄夫医師が「災害医療の基本と命を



つなぐ病院の役割」と題して講演。第三部は市民の方々に参加していただき、当院看護師が「AEDの使い方体験」の講習を行いました。

平日の開催にもかかわらず104人が来場。参加者からは「改めて地震の怖さを認識した」「次回も参加したい」などの声が上がりました。

（副事務部長 岡野周一郎）

〈埼玉〉川口総合病院 地域への感謝を込めて 清掃活動を初実施

3月6日、地域への感謝の気



持ちを込めて、当院職員が西川口駅周辺でゴミ拾いを行いました。

今回は佐藤雅彦病院長をはじめ、副院長、看護部長、事務部長、部課長を中心に合計18人が清掃活動に参加。道路脇のゴミを拾っていると、赤信号で停車した車の中から「ゴミ拾いですか？ ご苦労さまです」と声をかけられる場面も。これに対し、佐藤病院長は「こういったお声がけはうれしいですね」と笑顔を見せました。

駅周辺では特にタバコの吸い殻が目立ちましたが、ゴミ拾いが進むにつれ、周囲の景色がきれいになっていくのを実感。活動終了後、参加者は皆、清々しい表情を浮かべていました。

（済生記者 原 衣里奈）

〈埼玉〉鴻巣医療福祉センター 名誉ある賞が職員の目標に

3月11日、鴻巣医療福祉センターの対象職員に対し令和6年度の永年勤続表彰式を鴻巣病院で行ないました。

今年度の対象者は、30年表彰が3人、20年表彰が4人、10年表彰が9人。永年勤続者への感

謝の意を込め

て、鴻巣病院の關紳一院長から表彰状と記念品が授与されました。

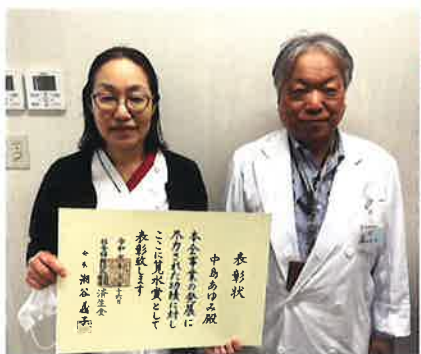
受賞した職員は「永年表彰の受賞は勤務の励みとなり、また済生会職員として誇らしい気持ちになりました」と感慨深そうにコメントしました。

また、2024年度済生会総会で功労会員表彰を受賞した関口曉雄院長補佐兼

地域支援事業本部長と、寛水賞を受賞した中島あゆみ師長の受賞報告も併せて行なわれました。

23年度の關院長の有功会員表彰受賞に続き、今年度も名誉ある賞を受賞した関口部長と中島師長の功績は、職員にとって大きな目標となります。

（済生記者 田島利恵子）



topics

緩和ケア病棟を新設

このたび当院では、3階に新たに緩和ケア病棟を開設。稼働



参加者からは「先生の考え方を日々の暮らしに取り入れたい」など多くの声が寄せられました。

（済生記者 川原彩花）

〈大阪〉千里病院



験を持ち、2013年にはオペラ「椿姫」と免疫制御の研究でイグノーベル医学賞を受賞した新見正則さん。新見さんと篠崎浩治院長は若き日の臨床現場で共に研鑽を積んだ仲で、本講座もそのご縁により実現したものです。講演では「人は色々」「些細なことの積み重ね」「セレンディピティ（偶然の幸運）」の三つのキーワードを軸に、心と体の健康が「しあわせ」の基盤であることを、医学的視点とユーモアを交えながら分かりやすく解説。その後は活発な質疑応答が行なわれました。

参加者からは「総合病院が緩和ケア病棟を設けてくれるのは非常に有意義」といった感想があり、地域における緩和ケアへの期待の高さがうかがえました。当院では、自宅での療養を望むがん患者さんの思いに応えるため、在宅と病院での緩和ケアの一体化を図り、地域の医師と当院医師による「2人主治医制」を考えています。がん患者さんがその人らしく、安心して生活を送れるよう、長期的かつ継続的な支援を行なっています。

（済生記者 二階堂潤江）

当日は暖かな日差しの中、桜の花も8分咲き。地域の方々が多数参加してにぎやかな雰囲気の中、「懐かしいね」「久しぶりだね」と会話も弾んでいました。公園を歩くことが久しぶりの方もいて、桜の花を見ながら昔話にも花を咲かせていました。昼食は天丼、おやつは桜餅を楽しみまし

〈兵庫〉看護小規模多機能型居宅介護などしこ神戸地元行事に参加して表情も華やぐ

4月6日、藤原台ふれあいまちづくり協議会が主催する「第20回藤原台さくらまつり」に利用者さん7人、職員5人で参加しました。

日頃、施設と自宅との往復が多い中、地域行事に参加することで表情も明るくなり、頑張りなくてはとの思いも話してくれています。住み慣れたまちで地域の皆さんと一緒に過ごせる機会となりました。

（計画作成担当者 藤内貞子）



広報実務研究会に90人各施設の好事例を共有

済生会広報実務研究会

3月21日、〈岩手〉北上済生会病院で第18回広報実務研究会（済生記者研修共催）をハイブリッド開催し、約90人が参加しました。

今回は「広報戦略をTTP事例発表大会」と題し、各施設から広報の取り組みと成果を募り学会形式で発表。ブランディングアップの取り組み2題、イメージキャラクターの活用、インスタグラムを1000日間継続した結果、フォローワー増への打開策、広報活動再開の取り組み、企業との関係づくりなど全7題が採択されました。発表はどれも熱意に満ち、参加者からは多くの質問が寄せられました。広報は、コミュニケーション活性化や認知度アップ、ブランディングを通じた経営貢献など、無限の可能性を秘めています。今後も各施設の好事例を共有し、済生会全体を盛り上げていきたいと思っています。

（岩手・北上済生会病院 済生記者 掛川千恵子）

〈滋賀〉葉山地域包括支援センター多職種連携の重要性を伝える

3月9日、全国在宅療養支援医協会滋賀県支部主催の第3回滋賀県在宅医療推進フォーラムで、船元美穂センター長が地域との協働について発表しました。当センターからは在宅療養につながるための地域と人との関係性、見守り合いの実情やその仕掛けづくり、助け合いの地域風土の醸成を見据えた市民への啓発、専門職交流会からのネットワーク構築について話題提供をしました。

フォーラムには約50人が参加。船元センター長は「当センターの活動に興味を持っていただけたように感じます。多職種での連携は個別支援だけでなく、地域包括ケアシステムの構築に不可欠です。これらの連携の輪を大事にさらに大きくしていきたいと考えます」とコメントしました。

（社会福祉士 柳原安里）

〈栃木〉宇都宮病院イグノーベル賞受賞医師が考える「しあわせって？」

市民公開講座「しあわせに生きるためのヒント」を4月12日



に当院みやのわホールで開催し、276人が来場しました。講師は外科医として豊富な経



みんなを知ろう！ 院内学会を初開催

神奈川県病院

3月11～13日、「みんなで行こう！ みんなを知ろう！ 第1回済生会神奈川県病院院内学会」を開催し、延べ167人が参加しました。

職種・部署間の理解を深め、医療ケアの質向上や業務改善、職員間のコミュニケーション活性化を目的に実施しました。



選ばれました。受賞者への表彰は3月27日の院内全体会議で行なわれました。

アンケートでは9割以上の参加者が開催を「良かった」と回答し、「他職種の取り組みが知れて勉強になった」「業務の工夫が参考になった」などの感想が寄せられました。

(済生記者 小山友輝)

熊本病院

レシピコンテスト開催で 職員のアイデアが集結

当院調理食育室・職員健康管理室主催で「あなたが食べたー！ レシピコンテスト」を開催し、3月25日に表彰式が行なわれました。

1月31日から2月14日にかけて、職員食堂で食べたいメニューのレシピを五つの部門に分けて募集し、応募総数は25件に達しました。書類選考を通過したレシピを実際に調理し、試食会で最終的に最優秀賞と優秀賞をそれぞれ5人ずつ選出。選考基準は「アイデア・ビジュアル」「おいしさ」「栄養バランス」「材料の入手・調理のしやすさ」とし、最優秀賞受賞者にはお米5キロ、



優秀賞受賞者には職員食堂のランチ1回券が贈られました。

今回応募されたレシピの中から、職員食堂のメニューとして登場予定です。

(職員健康管理室 小嶋あかり)

日ごろの感謝やリスペクトを伝える！

〈神奈川〉横浜市東部病院

3月19日と21日の2回に分けて、「Good Job - アワード」の

表彰を行いました。当院では日頃の感謝やリスペクトの気持ち



ちを積極的に伝えていこうと、多様な働き方小委員会が中心となり昨年10月に「褒め活」を始動。Good Job - エピソードを職員から募集し、その中から受賞者を決定します。

初回の優秀賞は、放射線部の綿引翔太さん&ST&T画像報告委員会と清掃の委託業者である富士ファシリティーズの皆さんに決まり、委員会メンバーがサプライズで受賞を伝えるに行きました。

皆さんは突然の訪問に驚きながらも、診療放射線技師の綿引さんは「これからも精進していきます」、富士ファシリティーズの皆さんは「元気で長く仕事を続けていきたいです」と喜びのコメントを寄せてくれました。

(済生記者 荒木愛美)

〈奈良〉中和病院

イオン開催の相談会で 脳卒中相談窓口を案内

2月20日、イオン桜井店で栄養・食生活相談会が行なわれ、62人が来場しました。健康・医療費相談を行なった当院ブースでは、血圧測定と健康相談を実施し、脳卒中相談窓口開設と無



料低廉診療事業の案内をしました。

当院では昨年4月1日、一次脳卒中センター（PSC）コア施設として、脳卒中相談窓口を開設。受診歴のない患者さんやそのご家族も対象で、脳卒中に関するあらゆる悩みごとに対応しています。

この日は健康相談が盛況でたくさん質問が寄せられ、看護師が一つひとつ丁寧に回答。「相談できてよかった」との感想をいただきました。

(医療相談室 勝山久美子)

看護補助者同士で学び合う 介護成果発表会

〈山口〉豊浦病院

3月19日、看護補助者の介護成果発表会を開催し、職員約20人が参加しました。業務改善、連携、接遇やタスク・シフト／シェアなどをテーマに4題の発表がありました。

常日頃からの職員のさまざまな思いが、実際に形になっていく力強さを感じることができ、素晴らしい発表会となりました。参加職員からは「業務効率化や患者さんにとってより良い療養環境の提供など、日頃感じていることが今回の発表につながった」との声がかれました。活発な質疑応答も飛び交い、参加職員間で学び合うことができました。

20年以上続くこの取り組みは、本誌2024年10月号「済生会交差点」でも紹介されました。今後も無

理せず、細く長く、今の活動を続けていければと思います。

（済生記者 西田千鶴）

病院職員としての心構え

新潟病院

4月1日、新入職員辞令交付式が行なわれ、新たに44人の仲間が加わりました。

歓迎挨拶の中で本間照院長は「天台宗の開祖・最澄が残した言葉『二隅を照らす』とは、片隅に光を当てて明るくすること、隣で困っている人のためにやさしく力になってあげること。今いる場所ですら自分でできることを一生懸命行なえば、あなたもまわりの人も明るい気持ちになっていくでしょう」と話し、病院職員としての心構えが伝えられました。

式典終了後は早速研修が始まり、新潟県済生会の吉田俊明支部長による「済生会について」の講義を皮切りに、所属長等による各部署の業務紹介や社会人としてのマナー講習、同期同士の絆を深めるグループワークなど、多岐にわたる研修が行なわれました。

そして2週間にわたる研修を終え、新入職員はそれぞれの部署に配属されました。

（総務課 吉川未織）



芸術大学の協力で 患者さんの似顔絵制作

〈大阪〉富田林病院

3月6日にがんサロンを開催し、大阪芸術大学キャラクター造形学科の教授1人・卒業生4



人の協力のもと、似顔絵を制作する企画を当院講堂で行ないました。

当日はがん患者さん7人とそのご家族、計14人が参加。来院できなかった大切な家族・ペットの写真などを持参した方や、お孫さんと参加した方も。完成した似顔絵を見て涙を流す姿や、



絵を抱きしめる姿も見られました。似顔絵を通じて参加者同士が話をするきっかけになり、また開催してほしいとの要望が多数ありました。

スタッフからは「普段病院では見られないような患者さん・ご家族の様子が見られた」、大阪芸術大学の皆さんからも「参加者の方と話ができて、笑顔でとても良い時間を過ごせた。今後も継続していきたい」との声が上がりました。

（済生記者 島崎寛将）

ひざの痛みを 我慢していませんか？

〈神奈川〉横浜市南部病院

3月7日に整形外科主任部長の小林秀郎医師が豊田地区センターで「ひざの痛み、どうにかならない？」と題して講演を行ない、地域住民48人が参加しました。

講演の冒頭、小林医師が「今ひざに痛みのある人？」と問いかけると多くの方の手が上がりました。講演ではひざの痛み



の一因となる変形性膝関節症の

治療法に加え、痛みがある人におすすめの運動「ウォーキング」「水中ウォーキング」「大腿四頭筋訓練」の三つを紹介。座位の状態です足を床からゆっくり上げ下げする動作でできる「大腿四頭筋訓練」は皆さん早速実践するなど、前向きな様子が見られました。

今回の講演がひざの痛みがある人だけでなく、まだ不調がない人の健康意識の向上の一助になれば幸いです。

（済生記者 南川茉悠）

済生会看護部リクルートサイトオープン！

あなたも「なでしこナース」になりませんか？



<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>

topics

MSW等研修会に50人

和歌山病院

1月25日、和歌山城ホールで令和6年度済生会近畿ブロックMSW等研修会を開催しました。休日にもかかわらず、総勢50人のMSWが参加しました。一題目のテーマは「地域生活定着支援センターについて」。和歌山県地域生活定着支援センターまゝるの中井沙耶さんを講師に迎えていただきました。二題目は和歌山刑務所の高橋昇平さんに、和歌山刑務所における社会復帰支援について講演していただきました。参加者からは「同じ職種であっても、支援の内容の違い、関わり方の違いに驚くことばかりでとても勉強になった」「普段の業務からは得ることのできない講演内容で興味深かった」など、前向きな意見を聞くことができました。

会場からもたくさんさんの質疑応答があり、大変盛大な会となりました。



毎月30日はお弁当の日

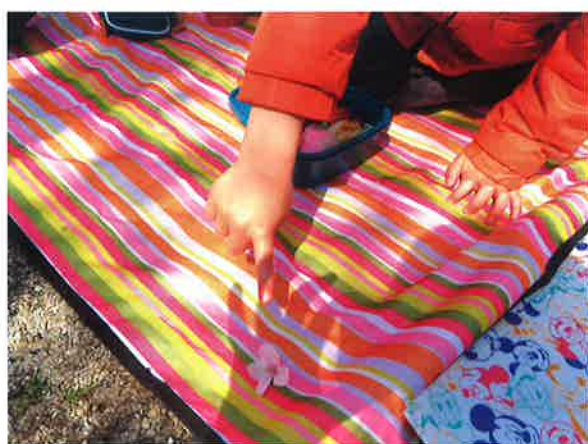
当院では、毎月30日の昼食は「お弁当の日」で、調理さんが一人ひとりのお弁当を作ってくれます。



（埼玉）川口乳児院

ました。

（済生記者 松元靖寿）



3月30日のお弁当の日は幸運にも快晴で、さらに桜も咲き始めていました。幼児クラス10人の子どもたちは、近所の公園へ出かけて桜の木の下でお弁当を食べました。普段、幼稚園へ通っている2人の園児もこの日はちようどお休みのため、一緒に参加することができました。鳥がちぎって落とした桜を見付けて、「見て見てー」と指を差して教えてくれる子どもたち。公園でお弁当を食べることが、生まれて初めての子どももいて大変貴重な経験となりました。

（済生記者 大貫典子）

門野雅夫先生 感謝の集い



門野雅夫先生 感謝の集い



〈北海道〉小樽老健はまなす 19年間お疲れさまでした

平成18年4月から19年間、当施設の施設長を務めた門野雅夫施設長が令和7年3月31日をもって退職しました。

3月28日には近藤真章支部長をはじめ現職スタッフやOBなど30人ほどが集まり、長年の労をねぎらい感謝の集いを行いました。テーブルスピーチでは、過去の思い出話など終始笑いの絶えない時間を過ごすことができました。

最終日の3月31日には入所者さんも見送りに。改めて人望のあった方だと実感させられました。今後は、ご家族との時間を大切に過ごすことと思います。門野さん、19年間お疲れさまでした。

最後に、長年の生活パターンが身について4月1日出勤してこないか心配していましたが……大丈夫でした（笑）。

（済生記者 伝法俊和）

〈三重〉明和病院

皆で済生会人を目指す

4月1日に令和7年度入職式



〈栃木〉宇都宮病院

地元ラジオ出演で 性暴力被害者支援を解説

3月4日、地元ラジオ番組「みんながけつぷちラジオ」に稲見一美地域連携課長が出演し、性暴力被害者支援の現状について話しました。



番組内では、性暴力被害者が直面する課題や、支援の必要性について詳しく説明。当院内に設置されている性暴力被害者支援センターとちエールの役割や、被害者が孤立せず支援を受けられる環境の重要性についても言及しました。

稲見課長

は「性暴力

被害者は心身に大きなダメージ

を受けることが多く、誰にも相

談できずに苦しんでいる方も少

なくありません。そのため、被害者を迅速に支援機関へつなぐことが不可欠です。今回の出演を通じて、地域住民の皆さまにも支援の必要性を知っていただき、地域全体での協力が不可欠」と改めて強調しました。

（地域連携課 秋山綾香）

〈福岡〉二日市病院

トランシーバー体験が人気

3月23日、春日公園で防災フェスティバルが開催され、約2000人が来場しました。今回で9回目となるイベントには自衛隊や消防、警察やさまざまな福祉団体等が参加します。当院はDMAT隊員5人でブース出展し、災害時でも必要な薬をまとめて管理できる「ここ薬バッグ」を紹介。また、災害拠点病院としての役割やDMATの活動についても紹介しました。

特に盛り上がりを見せたのは、トランシーバー体験です。離れた場所にいる発信者が言葉だけで写真の内容を伝え、受け手がその情報をもとに写真を選ぶゲームは、親子連れや子どもたちに大人気。楽しみながら、災害



時の情報伝達手段の一つであるトランシーバーの使い方を学びました。

（済生記者 久富大史）

〈石川〉金沢病院

初期研修医の当院修了式

3月31日、初期研修医のリヒマンニング医師の研修修了式を行いました。リヒマン医師は金沢大学附属病院の臨床研修（協力型）プログラムを受けており、当院での9カ月間の研修を無事終ええました。

修了式では、荒木勉院長から修了証の授与とともに「当院で学んだことをこれからの診療、医師人生に生かしてください」と激励の言葉があり、リヒマン医師は「指導していただいた医師をはじめ、アットホームな雰囲気の中で研修することができ



ました」と感謝の言葉が述べられました。

また、代田幸博臨床研修部長は、リヒマン医師が3月に金沢市で開催された第255回日本内科学会北陸地方会プレナリーセッションで若手奨励賞を受

賞したことを紹介。「指導した医師が逆の良い刺激をもらいました」と受賞を祝しました。

（総務課長 吉村英士）

京都済生会病院

前橋病院の救急車を譲り受けました

3月18日、〈群馬〉前橋病院の旧救急車が当院に到着しました。同院はクラウドファンディングを活用して救急車を新調したばかり。旧救急車は引退するところでしたが、当院では救急車を所有していないため、この機会に譲り受けることにしました。

同日午前10時に前橋病院を出発した救急車は、当院の中川雅夫事務部次長と大塚裕司総務課長の安全運転のもと532キロメートル走行し、午後6時40分頃、当院に無事到着しました。車両は使用年数を重ねているものの、外観やライトに異常はなく、走行にも支障なく、まだまだ現役！ 当院での使用に向けて必要な調整を行なった後、

患者さんの搬送やDMAT活動において活躍してくれることを期待しています。

（済生記者 松岡志穂）

新年度に向けて 学用品などを寄付

第8回フード&学用品ドライブ事業を3月10日から24日まで開催しました。即席麺などの食品や、子ども服などの日用品、ノートや鉛筆などの学用品、総数489品の寄付が集まりました。物価高騰中にこんなにたくさんさんの支援をいただき感謝しています。

集まった品々は、食品は「NPOフードバンク飯塚」、日用品や学用品は「フリースクールみんなのおうち」、子ども用品は「嘉麻市子育て用品リースセンター」へそれぞれ寄付しました。

子どもたちが寄付した品々を持って、明るい気持ちで新年度を迎えてもらえれば幸いです。今後も地域のための取り組みを行なっていきます。

（地域連携福祉事業課 社会福祉士係長 岡松佳央里）



topics

〈大分〉日田病院 DMATカーが祭りに登場

地元の代表者から依頼を受け、3月23日に当院のDMAT車両が警察・消防団とともに石井里山公園桜まつりに参加しました。会場には400人が来場。地元の石井小学校や五和こども園の子どもたちも来場し、地域による情操教育や地域振興の一環として実施されました。

当院スタッフは、大分DMATの活動紹介や「はたらくるま乗車体験コーナー」での車両展示、乗車体験のサポートなどを行ないました。乗車体験には約50人が参加し、掠野美智子・日田市長をはじめ多くの方々から災害医療活動に対する応援や温かい言葉をいただきました。子ども向け企画としては、DMATの制服を着てもらい記念撮影を実施し、思い出づくりと将来への関心を深める機会となりました。今後も地域の皆さん



とともに防災・医療活動の重要性を伝えていきます。

（医事課 係長 末竹清治）

〈和歌山〉特養潮光園 地震を想定した防災訓練

3月19日に当施設で総合防災訓練を実施し、職員15人・利用者さん10人が参加しました。

午後1時30分に「震度5の地震発生」の放送が流れ、火災警報器が鳴り響きました。利用者さんの参加は3回目。非常口への誘導は職員の迅速な行動により無事に完了しました。今回、初めてレスキューシートを使用し、階段での救出活動訓練も行ないました。

訓練終了後は協力いただいた



湯浅広川消防本部から講評があり、「皆さん、かなり慣れてきましたね」とのコメントも。最後に、浦崎弘之施設長から「いつも同じ訓練の繰り返しですが、まず非常口へ向かうということを意識してもらったと思います。南海トラフ地震がいつ来るかわかりませんが、常に避難誘導ができるように準備を忘れないでください」との訓示がありました。

（済生記者 山崎良彦）

〈神奈川〉横浜市東部病院 結紮縫合手技を競う スーチャリングコンテスト

3月21日、多目的ホール（中）



希望する場所で最期まで住み続けられるまちづくり」のためにさまざまな課題解決に取り組んでいます。

飯塚医療圏のこうした取り組みが、今年3月に発行された厚生労働省の「在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer.4」などに好事例として掲載されました。今後も地域のために頑張ります。

（地域連携福祉事業課長 濱崎妃沙子）



〈大阪〉千里病院 病院の経営・業務改善へ 初のPJチーム発表会

4月10日、当院講堂で2024年度病院プロジェクトチームの発表会（総括）を開催しました。この取り組みは24年度からスタートしたもので、病院の経営・業務改善を目指し、「病院の認知度」「紹介・逆紹介」「タスク・シフト/シェア」など、事前に開催された職種横断検討会から抽出された10テーマに基づいて活動が行なわれました。

当日は管理職を中心に約40人の職員が参加。日々の多忙な業務の合間を縫って取り組まれた各プロジェクトチームの活動報告では、現場ならではの課題意識や工夫が感じられ、病院全体で一歩ずつ前に進むうとする姿勢が感じられました。

初の試みとなった今回の発表会は、今後の取り組みの土台と

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 好事例として協議会が 厚労省の冊子に掲載

なる貴重な機会となりました。
（経営企画課 中路知幸）

5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会は飯塚医師会が2016年に設立し、当院も拠点病院として参加しています。当時、筆者は済生会地域包括ケア連携士の資格を取得した頃で、手探りで協議会を企画・運営。民生委員に協議会に参加してもらうなど、顔の見える関係構築を推進しました。

同協議会は現在も、在宅医療・介護連携推進事業として「飯塚医療圏に住んでいる全ての人が、



第1回5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会



で「2024年度東部病院外科スーチャリングコンテスト」が開催されました。本コンテストは腹腔鏡下縫合結紮手技を競うもので、毎年恒例のイベントとなっています。

参加対象者は消化器外科と救急外科のスタッフ、レジデント、研修医1・2年で、今年度は16人が参加。全体は2部構成で、

第1部は個人戦として参加者全員のタイムトライアル、第2部はチーム対抗のタイムトライアル（第1部のタイムでチーム分け）でした。

個人戦の1位は鈴木結海人医師、2位は中村文音医師、3位は小金井雄太医師で、団体戦は山田暢医師チームの優勝（山田

topics

大腸がん啓発月間の3月は、
検診の重要性を広く発信するた
めに世界各地のランドマークが
青くライトアップされます。当
院でも3月5日から9日まで、
初のライトアップを実施しまし

青のライトアップで 大腸がん啓発

岡山済生会総合病院

(ソーシャルインクルージョン
担当 鎌村誠司)

連携先を見つける
ことができずに大
変苦慮していまし
た。
そこで、昨年9
月から神奈川県病
院を中心に被収容
者への医療対応を
開始。数多くの被
収容者の受診を受
け入れたことから
今回の協定締結に
至りました。神奈
川県済生会は人権
を尊重し、入管被
収容者への医療サ
ービスの提供を今
後も継続したいと
考えています。



〈富山〉なでしこ保育園 お花見散歩で春満喫

4月7日に当園の年長児・年中児合計45人で富山運河環水公園にお花見散歩に出かけました。公園に到着すると運河沿いの桜並木は満開！子どもたちからは「きれい！」「桜いっぱい！」などの声が上がリ、目を輝かせてお花見を楽しんでいました。遊覧船にも遭遇し「おーい！」「やっほー！」と手を振ったり、公園のシンボルである運河にかかる橋からは、公園全体とともに立山連峰も眺めることができ、春の自然や景色を体いっぱい感じることができました。

最後には、広場でお友だちと走り回ったり、転がったり、桜の花をじっくりと観察したり……。見て、感じて、遊んで、盛りだくさんのお花見散歩に「楽しかった！」との声が聞かれ、大満足の子どもたちでした。

(済生記者 宮本亜美)

〈滋賀〉特養淡海荘 家族会でお花見イベント

淡海荘家族会主催で、3月30日にお花見イベントを行ないま

た。当院西側のモニュメント「うみのさち」とその周辺で、7色に変化するLED電球を用いて、青色セロファンをライトに挟み込んだりしてブルーにライトアップしました。

大腸がん啓発カラーである「青」



には、大腸がんのリスクを知り、検診を受け、診断や治療法への理解を促す意味が込められています。

地域の皆さんに検診の重要性やさまざまな病気のリスクを伝えるため、今後もこうした取り組みを継続していきます。

(済生記者 高畑貴子)

した。

ご家族と利用者さんが一斉に集まるイベント開催はコロナ禍以降初で、100人以上の参加申し込みがありました。しかし、当日は寒の戻りで気温10度以下。桜も一輪も咲いていない……と集まった皆さん苦笑いな状況となってしまいました。そのため急遽、室内での開催に変更し、85人が参加。桜の映像や音楽が流れる中、家族会からのプレゼントのプリンや飲み物が提供され、楽しいひと時を過ごしていただきました。また、介護職員から普段行なっている嚥下体操や、面会時にご家族でもできるリハビリ体操などを紹介しました。

ご家族からは「皆で集まる



入管と診療に係る協定締結
神奈川県済生会は、東京出入国在留管理局横浜支局と被収容者の診療に係る協定を3月12日に締結しました。

この協定締結には、2021年に名古屋入管で発生した被収容者の死亡事故が背景にあります。この事故を契機に、東京入管横浜支局は外部医療機関との連携強化を模索していましたが、

機会を作ってくれて感謝」「来年はぜひ桜の下でやりましょう！」といった声を多くいただきました。

(生活相談員 遠藤百虹)

神奈川県済生会



WEB掲載はじまりました！ 済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！



<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>



北海道済生会

小樽市が連携担当を選任
まちづくりの加速に期待

北海道済生会と連携している小樽市で、4月にウエルネスタウン構想連携担当主査が選任されました。より連携を強めながら事業を推進することや、商業施設内に移転した自治体施設の有効活用を検討することが役割です。

両者は2023年12月に包括連携協定を締結。その後は防災イベント実施やがん検診受診



の啓蒙に済生会で実施する健康アプリの活用（予算化）を協働で検討・実施。また、小樽市の重層的支援体制整備事業コードイネーター役や基幹相談支援センターを受託してきました。

今回の選任はこれらの活動が評価されて実現したものです。今年度も日本財団の助成によるAIチャットボット開発や、済生会地域包括ケア連携士の養成研修実施を予定。どちらも小樽市との連携が重要になるため、今まで以上に密な関係をつくり上げていきたいと考えています。

（済生記者 清水雅成）

中学生90人に向けて
認定看護師ががん教育

がん性疼痛看護認定看護師の多田都子看護師が、2月18日に藤陽中学校で「がんを知ろう」というテーマで講演を行ないました。中学2年生90人が真剣に耳を傾け、がんについての理解を深める機会になりました。

多田看護師は日々の勤務や、患者・家族と接する中で得た経験を、医療者・認定看護師としての思いなどを交えながら、生



徒たちに分かりやすく伝えました。実際の臨床現場からの生の声は、生徒たちにとって貴重な学びの場となったようです。

がん教育の目的は、がんに関する正しい知識を身につけるとともに、患者やその家族への理解を深めることです。このような教育活動を社会貢献の一環と位置づけ、今後も引き続き行なっていく予定です。

（済生記者 島崎寛将）

〈福岡〉大牟田病院
生理・生化学検査室に
新しい仲間が加わりました

4月1日、生理検査室と生化学検査室にそれぞれ1人ずつ、新たな仲間が加わりました。

に学び合い、支え合える職場を目指していきたいと思えます。

（検査部 荒木美優）

東京DMAT指定病院運用開始

〈東京〉中央病院

れから始まります。

（総務課 係長 國府田 学）

95人が新たに入職
医療人の第一歩踏み出す

〈埼玉〉川口総合病院

桜が咲き誇る4月1日、入職式を行いました。佐藤雅彦病院長からは「社会人・済生会・当院職員として意識してほしいこと」について講話があり、新入職員95人は真剣な眼差しで耳を傾けていました。

入職式終了後には、全職種合



3月27日、東京都から東京DMATカーが納車されました。当院は昨年12月27日に都内で28番目の東京DMAT指定病院に認定、4月1日から運用開始しました。

東京DMATは都内で発生した災害等に、東京消防庁の指揮のもと活動。都の指示による都外活動では、この東京DMATカーで駆けつけ傷病者の治療を行います。

納車当日は、都から上村淳司・東京都保健医療局医療政策部災害医療担当課長をはじめ3人、当院から杉村栄一・東京都済生会支部長、海老原全院長、橘川健二事務長、救急診療科医師、救命士が参加。上村課長から海老原院長に車両の鍵が受け渡されました。

この車両には最新の設備が備わっており、長期間の活動にも対応可能です。当院の念願であった東京DMATの活動がこ



同の新人オリエンテーションを3日間にわたって実施。済生会の理念や社会人・医療人としての基礎を学びました。

最終日には先輩看護師の指導によるBLS実習や災害対策訓練、さまざまな視点から学び合うワークショップなど、医療現場で必要な知識と技術を実践的に学ぶプログラムも実施されました。

新入職員からは「社会人としての自覚を認識できた」「社会人基礎力を身につけ、知識やスキルを磨いていきたい」などの感想が寄せられました。

（人事・総務課 本橋和宏）



新入職員の2人が新たな風を吹き込み、検査室全体にも良い刺激が生まれています。

大園さん(左) 下田さん(右)

は「患者さんが安心して検査を受けられるよう、温かい対応を心がけていきます」、生化学検査室の下田陽生さんも「日々学びを重ねながら、皆さんとともに成長していけるよう努めます」と初々しくコメント。

筆者も含む先輩職員は新人の姿に刺激を受け、初心を思い出

topics

〈山口〉豊浦病院 特定行為研修2期生が 1年間の研修・実習を修了



3月28日、看護師特定行為研修2期生7人の修了式が当院で行なわれました。中司謙二院長から一人ずつに修了証が手渡され、岩本なお子看護部長からは当院オリジナル特定行為バッジが手渡されました。

指定研修機関として1年目は、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「創傷管理関連」「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」の3区分でしたが、2年目は「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連」と「血液ガス関連」を追加し計5区分で、受講生は選択した区分別科目を1年かけ研修・実習しました。

受講生代表の守口恵看護師は「研修で学んだ知識・技術を実際に臨床の現

場で役立てることができていると実感。知の共有をはかることで病院全体の看護の質向上を目指したい」と述べました。

（経営企画室長 日高滋規）

〈大阪〉吹田特養高寿園 一年の目標を振り返り 課題発見につなげる

当園では令和2年度から人事考課制度を導入し、人材育成や組織の成長を促進するため、毎年3月に部署目標成果報告会の場を設けています。

5年目となる今年の報告会は3月13日に実施し、発表者を含む

め37人が参加。当園だけでなく、日々業務の連携を行なっている吹田医療福祉センターからも多くの職員が集まりました。

令和6年度の全体目標は「各サービスの質の向上」と「効率的な運用」。PDCAサイクルに基づいた業務計画を立て、ケアの質の向上だけでなく、新しいサービスの開拓や、無駄をなくすなど業務の効率化を図りま

した。目標の振り返りを実施することで、課題の発見による業務改善や組織全体の成長にもつながっていきます。

（介護福祉士 守安 誠）

〈神奈川〉横浜市南部病院 サーベイヤー仲間、募集中

日本医療機能評価機構では、2025年度のサーベイヤーを募集中です（3月14日から応募受付開始）。機構ホームページの職員募集のサイトから見ることが出来ます。

筆者は4年前に事務サーベイヤーの委嘱を受け、現在は年間4〜5回、全国の病院へ訪問審査に出かけています。他院の優れた取り組みを評価するとともに、自院の質の向上の参考にし



昨年度、医療機能評価を受審した際に院内向けに注意点を解説した様子

今年180人を採用予定とのこと。なお、例年、看護サーベイヤーは募集の枠がすぐに埋まるとのこと。早めの応募がよさそうです。済生会の中で、サーベイヤーの仲間が増えることを願っています。

（地域医療連携室／MA室 荒川 隆）

静岡済生会療育センター令和 バスケット選手と笑顔で交流

3月31日、プロバスケットボ

れていた入所者さんは、選手へのパスが成功すると「すごい」「上手い」と褒めてもらえてとてもうれしそうでした。

〈奈良〉老健シルバーケア まほろば デイケアで豚汁作り

3月25日、デイケア利用者さん8人と豚汁作りを行ないました。まずは参加者の皆さんにエプロンと三角巾を付けていただき、料理工程を確認して、いざ調理開始！

「家ではお嫁さんが作ってくれるから久しぶり」に料理するわ」「二人暮らしやからこんなにくさんの量を作ることないねん」と話しながらも、20人前の具材を包丁で切つて炒めてくれました。グツグツ煮込んでいくと、フロア全体がいい匂いに。出来立ての豚汁をよそ



一人ひとり一緒に写真撮影してもらい、楽しい交流とすてきな体験ができました。

（済生記者 大須賀彩音）

い、昼食時に皆さんに召し上がっていただきました。

「具だくさんでおいしいわ」と喜んでもらい、「今度はお菓子作りしたいな」とのリクエストもあったので、定期的に開催したくさんの方に参加してもらえればと思っています。

（済生記者 林 嘉夏）



ールチーム「ベルテックス静岡」の加納誠也選手とアシスタントコーチの大石慎之介さんが当施設を訪れました。

二人は、日々病気や障害と向き合い戦う子どもたちのために、実際に病院や施設、特別支援学校等を訪問する「1×41（ワンフォーワン）活動」を行なっています。この日は、入所者さん29人とご家族、職員がバスケの体験や交流を楽しみました。

入所者さんは初めて観るプロのドリブルやシュートに大興奮。「早くボールに触ってみたい！」と手を伸ばしていました。この日のためにバウンドパスを練習

topics



全員（計58人）と職員9人で春の食事を実施しました。

食事は、いつもと違う食事を提供して楽しく過ごしてもらうことが目的。おいしいものを食べてもらおうと豪華に肉を使ったメニューを考え、焼肉屋さんの牛しぐれ煮弁当を選びました。

お弁当を配っている最中から入居者さんは待ちきれずにソワソワ。お弁当、味噌汁、ジュース等の準備が終わった後に声を合わせて「いただきます」と言って食べ始めると、あつという



肝臓にやさしい食事で減塩を始めよう

3月9日、山口県セミナーパーク講堂で山口県腎友会主催の県民公開講座が開催され、当院栄養科の管理栄養士・河村恵子さんが「腎臓にやさしい食事について」と題して講演を行ないました。

間に食べ終わられる方もいました。

どの入居者さんからも「おいしい」「おいしかった」との声が多数聞かれました。来年度も入居者さんが楽しめる食事が実施できるよう計画していきます。

（東館介護課副主任 宇野竜亨）



実際にどのような食品に塩分が多いのか、どのように工夫すると塩分摂取量が減るのか——河村さんは調味料の使い方や調理方法での減塩のポイントについて解説し、参加者130人はメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。

参加者には、日々の食事に関心を持つことの大切さや、商品の栄養成分表示を確認するなど、減塩をできることから始めることの大切さを知ってもらえたと思います。

（MSW 田中絵美）

登録医と充実の勉強会 & 情報交換会

3月15日、当院大講堂で「第24回病診連携勉強会 & 登録医総会」が開催され、86人が参加



新任部長による診療科紹介から始まり、昨年末に本稼働した「Web予約システム」について、病診連携室、連携医療機関、システムベンダーそれぞれに発表してもらいました。

医師会を交えてのパネルディスカッションでは、各々の立場から感じる点について貴重なご意見をいただきました。

その後、レストランへと場所を移し、ビューフェ形式で食事をとりながらの情報交換会が開かれました。約1時間と短い時間ではありましたが、会場は終始盛況のうちに終了しました。

（病診連携室 安部和子）



〈山形〉はやぶさ保育園 バスで行く楽しいお花見

4月17日、5歳児クラスの23人が高瀬川と霞城公園へお花見に出かけました。子どもたちは前日から「明日はお花見だね」と会話を弾ませながら楽しみにしていました。

当日は目的地までバスで移動。車窓から春らしい風景を見つけ、バスの中は終始子どもたちのにぎやかな会話が飛び交っていました。

4月に入ってから気温が下がっていて桜の開花が遅くならないか心配しましたが、このお花見を待っていたかのように桜が咲き誇っていました。子どもたちは満開の桜の下でおやつを食



べて、とても満足気でした。

高瀬川では、約300匹のこいのぼりが大空を気持ちよさそうに泳いでいる様子が。春の光景をたくさん観ることができ、子どもたちの目はキラキラと輝いていました。

（済生記者 熊谷舞寿美）

〈兵庫〉特養ふじの里 かに鍋、おいしいやんなあ

3月25日に西館の地域交流センターで春の食事を開催し、入居者49人・職員約20人で「かに鍋」を楽しみました。

以前、新聞広告に掲載されていたかのに写真を見て、入居者さんから「長い間、かにを食べたことがない。昔は鍋にしてよく食べていた」と話が



周りの入居者さんにも「かに鍋、おいしいやんなあ」「せやな」と盛り上がり、今回のイベントが開催されることとなりました。

かに鍋を準備している段階から、入居者さんは「おいしそう、な匂いがしている」と楽しみにしている様子でした。

いざテーブルにつくと、普段食事量の少ない入居者さんも大きく口を開けてかにを味わっていました。その様子を見ていた職員も「おいしいね」とうれしそうに声をかけていました。

（西館介護課主任 畝 和男）

〈兵庫〉特養ふじの里 東館はしぐれ煮弁当！

3月13日、西館のホールで東館2階・3階の入居者・利用者

〔北海道〕小樽病院

地元有名洋菓子店から おいしいプレゼント

4月14日、小樽を代表するスイーツ店である小樽洋菓子舗ルタオから、当院職員にお菓子を寄贈いただきました。

ルタオの姉妹ブランド、カナリナの「果実とバターのサブレ」（10枚入り）が、500人近い職員全員分届けられました。北海道産小麦に果実とバターを合わせた焼き菓子で、普段は東京・新宿でしか販売されておらず、JR東日本おみやげグランプリ2024で総合グランプリを獲得したものです。



突然、豪華なプレゼントを配られた職員たちはびっくり。早速口にした職員は、さつくりとした食感と、果実とバターのリッチな風味に笑顔になっていました。ルタオの地元医療機関に對する心遣いを活気に、職員一同、引き続き地域医療提供に



努めていきます。

（済生記者 定 淳志）

〔群馬〕前橋病院

新人看護師に贈る なでしこナース体験記

毎年春になると大空出版に「ナースから、ありがとう」を注文しています。たくさん書籍が届くと新人看護師を受け入れる緊張と期待が膨らみます。

この書籍には、平成28年4月号から平成30年10月号まで本誌に掲載されたコラム86本が収録されています。一つひとつのストーリーに心温まる、優しいなでしこナースの思いが詰まっています。不用意に読み始めると涙が止まらないので閲覧場所に



は注意が必要です。

10月の課題であるレポート作成の資料として新人看護師に配布。まだ半年分の看護師経験をストーリーと重ね、書籍の内容にも負けないようなレポートが提出されます。これを看護師長たちと供覧し、また涙するので「ナースコール」「逃げるなよ」は特に題材として選ばれます。皆さんもぜひ一読ください。

（看護部長 山賀理恵）

〔東京〕向島病院

病診連携の構築で SAS外来不足の打破を

3月13日、東京都内で「城東SAS地域連携」をテーマに地域連携講演会を開催し、近隣クリニック等から13人の医師が参加しました。

はじめに当院の福井一人地域



医療支援センター長から地域連携推進の取り組みを説明した後、睡眠時無呼吸外来（SAS外来）を担当する入江洋一循環器内科部長が講演。続いて、SAS外来の病診連携の成功事例として、東邦大学医療センター大森病院睡眠時呼吸障害センターの高井雄二郎教授にも講演していただきました。

（済生記者 加藤建志）

ようこそ！ ファシヤさん・アニサさん

〔茨城〕龍ヶ崎済生会病院

当院では看護助手を広く募集していますが、このほど特定技能制度による外国人材を初めて採用。インドネシアからファシヤさんとアニサさんが来てくれました。

3月21日から勤務を開始した2人は、4月1日に新入職者とともに辞令交付式に出席。その後、オリエンテーションとして「PUSHコース」（心肺蘇生法）に参加しました。講義内容



の聞き取りに苦戦しながらも一生懸命学び、受講後のアンケートでは、倒れた人を見つけたときの対応手順をしっかりと答えることができました。

（済生記者 堀越琴美）

東京都交響楽団が奏でる 美しい音色にうっとり

3月21日、当院外来棟1Fホールで「桜ほころぶ！はるかぜConcert」と題した、東京都交響楽団によるミニ音楽会を開催しました。当楽団の協力をいただき社会貢献活動の一環として実現したものです。

当日は、バイオリン奏者2人、ビオラ奏者1人、チェロ奏者1人の弦楽四重奏により、アンコール2曲を含む全9曲が演奏されました。



桜の開花には若干早かったですが、春の季節が感じられる暖かい陽気の中で、来場した地域の方々、患者さん、職員など100人近い観客が美しい音色に聴き入っていました。

（済生記者 笠松英朗）

〈大阪〉泉尾特養第二大正園 最先端の技術に触れて

3月6日、インテックス大阪で開催されたメディカルジャパン（3月5～7日開催）に、介護職員4人・事務職員1人で参加しました。

見守りシステムや離床センサー、入浴補助機器、介護リフトなどの最新技術の情報収集だけでなく、導入検討も目的として訪問しました。

会場には多くの企業が出展しており、さまざまなブースで製



品の特徴や活用方法について詳しい説明を聞くことができました。その中でも、ソフト食などの常食と見分けがつかなかった食事や、勤務シフトを数分で作れるシステムが印象的でした。最新技術に直接触れることで、今後の介護現場に役立つ知識を得られた貴重な機会となり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

（済生記者 黒木洋輔）

滋賀県病院 医療人材の育成目指して 聖泉大学と連携協定締結

3月3日、聖泉大学と当院は、地域医療の発展と医療人材育成を目指し、連携協定を締結しました。

医療従事者の人材不足が深刻化する中、地域医療の質の向上と人材育成は喫緊の課題となっ



ています。県内でも数少ない看護学部を持つ聖泉大学と、地域の中核病院である当院が協力することで、質の高い医療サービスを提供できる人材の育成と、地域医療への貢献を目指します。協定締結式では両機関の代表者が署名と握手を交わし、協力関係の強化を確認しました。今後は、看護学生の実習受け入れや研修・研究交流など、多岐にわたる連携を進めていきます。本協定を通じて、地域に根差した医療への貢献と、広く社会に貢献できる人材育成に努めて

〈広島〉老健はまな荘 〇（わっか）になって 頑張りましょう

令和6年度の1日当たりの入所利用者数目標（73人）をクリアしたため、アイデア豊富な小林博文施設長の提案で職員へ感



謝の品を贈ることにしました。気持ち伝わる物をと昔久美子看護師長が品物を選び、当初は「感謝」と焼印が入ったどら焼きを配ることに。しかし、発注直前になって、賞味期限が短いため期間中に職員全員（81人）に配ることが無理だと判断。急遽「来年度も〇（わっか）」になって頑張りましょう」とメッセージを付けたバームクーヘンに



変更し、3月27日から各職員に配りました。

令和7年度は、入所利用者数の目標を75人に上げ、通所リハビリテーションの利用者数を伸ばし黒字化する計画です。小林施設長、職員のモチベーションが高く維持できるよう、引き続き素晴らしいアイデアをよろしくお願いします。

（済生記者 佐藤 聡）

山形済生病院 新採用職員研修で チーム医療を学ぶ

4月1～7日、新人職員52人を対象に新採用職員研修が行なわれました。

内容は済生会について、病院



職員として働くために必要なこと等についての座学やグループワーク、院内見学など盛りだくさん。4日目のグループワークでは、紙を使ってできるだけ高いタワーを作る課題が出され、職種を超えたチームで力を合わせ取り組みました。シンプルな課題でも作品はさまざまで、各チームの知恵と個性があふれる仕上がり。不安定なタワーがギリギリ立った瞬間は思わず大笑いがありました。病院職員として働くために大切な多職種との連携について、和やかな雰囲気の中で学ぶことができました。

（済生記者 柏倉汐里）

長崎病院 放射線MS導入事例として 厚生労働省ホームページに掲載

令和に入り、放射線被ばくに関する法律が立て続けに改正。厚生労働省は、標準化された管理方法である「放射線被ばく



管理に関する労働安全衛生マネジメントシステム（放射線MS）を導入することを推奨しています。



放射線MSはPDCAサイクルを用いた被ばく管理手法で、特別なハードウェアやソフトウェアは不要のため、研修含め導入費用がかりません。

当院は一昨年度に使用方法のWeb研修を受け、昨年4月から試験運用を開始。評価・修正を経て、今年4月から本格運用を開始しました。この取り組みは、放射線MSを導入した医療機関の好事例として、厚生労働省委託事業のホームページに掲載されました。

（放射線室 技師長 河野 順）

topics

より安全な透析システムに

当院の透析センターは、3月24日から新しい透析システムの運用を開始しました。血液透析は当院の特色の一つで、外来と入院を合わせて100人以上の患者さんに日々透析医療を提供しています。

〈滋賀〉 守山市民病院



を被りながらお花見。桜の木の下で春の歌や思い出の歌を歌い、最後はポーズを決めて記念撮影をしました。天候にも恵まれ、皆さん普段は見られない柔らかな表情で、外の風や温かい日光、きれいに咲いた桜を存分に楽しんでいました。

（済生記者 林 嘉夏）



要視したのが、透析装置や体重計などの機器と、透析システム、電子カルテシステムとの連携強化。当院に最適なシステムを作り上げるため、他病院のシステム見学や、センター内でのデモンストレーションを重ねました。データ連携によって入力間違いなどのヒューマンエラーが



削減され、患者さんにより安全な透析サービス・ケアを提供できると期待しています。今後も運用をブラッシュアップして、患者さんにより安心していただける透析センターを目指します。

（済生記者 中嶋元香）

毎年恒例の観桜会に参加

4月4日、毎年一般公開の前日に行なわれる造幣局の「桜の通り抜け」特別観桜会に今年も参加してきました。

招待制で3人しか参加できなかったため、今回は大阪市外からの入所者さんにも参加してもらい、道中の車内では「初めて



だから楽しみ」と期待に胸が膨らむ声が聞かれました。到着後は少し気温が下がっていましたが、満開にはまだ早い桜でしたが、花が開いている桜を探しては「きれいだね。咲いてるね」と、普段は見られない表情も見られました。

満開とはいかず残念でしたが、当園にはすぐそばの城北川沿いに桜の木がたくさんあるので、開花状況を見ながら皆さんをお連れしたいと思います。

（係長 中西茂人）



〈神奈川〉横浜市東部病院 20人の看護師が研修修了

3月25日、看護師特定行為研修8期生11人と小児プライマリケア認定看護師教育課程4期生9人の合同修了式を行いました。

神奈川県済生会・赤星透支部



長と、当院人材開発センター長の丸山路之統括院長補佐から修了証を授与。研修責任者の渡邊輝子看護部長は「学んだことを広げて、キーパーソンとして良いチームを作り、誠実にあきらめずにケアを続けてほしい」とエールを送りました。

三角隆彦院長は「一気成長するには、教育が重要。今回

公式Instagram開設

〈群馬〉前橋病院

当院をより多くの方々に知っていただくことを目的に、YouTubeに続き、公式のInstagramを2月20日に開設しました。

病院の日常や医



の研修はトリガーにすぎず、大事なのは日々の努力であり、これからの皆さんの活躍に期待している」と激励しました。

（済生記者 荒木愛美）

〈奈良〉老健シルバーケア 入所者さんと春を満喫

4月7・8日、入所者の皆さんと敷地内駐車場にある桜の下でお花見をしました。両日とも33人が参加しました。

桜の品種は葉と花が同時に咲く山桜で、遅咲きの桜です。7日は3分咲きで、8日には5分咲きに。日ごとに花が咲いていきました。

朝は少しひんやりした空気に触れ、「やっぱり外の空気はおいしいな」「気持ちいいわ」「次はここで弁当食べてお花見したいな」と皆さん笑顔で話していました。

昼からは気温が上がり、帽子

療・福祉について役立つ情報、イベントなどの最新情報を定期的に発信し、より多くの方々とつながることを目指していきます。現在は広報の筆者を中心に、申し出てくれた各部署の職員にも協力してもらって更新していきます。

（済生記者 川上佳代）



前列左から2番目がファジャルさん



コロナ禍にも負けず 国家試験に見事合格！

〈山形〉特養ながまち荘

3月24日に第37回介護福祉士国家試験の合格発表があり、EPA介護福祉士候補者(EPA)のファジャル・ラホマントさんが合格しました。当施設EPAでは4人目の合格者です。

EPAは4年の滞在中、就労しながら学習して最終年の介護福祉士国家試験に挑戦します。ファジャルさんの来日は令和2年。新型コロナウイルスの流行期で、入国制限により6カ月遅れの入国。盛大な歓迎式典もできず、PCR検査結果が出るまでホテル待機など厳重警戒の中での受け入れでした。

会食・外出禁止など制約の多い中でも、毎日の仕事は決して手を抜かず、日本語や国家試験に向けての学習に真摯に向き合い続ける姿に、周囲からは「合格してほしい」と応援の声が大きくなりました。そして届いた「合格」の吉報に、施設内に歓喜の声が響きました。

(居宅介護支援事業所
奥原 信)

〈三重〉明和病院

「火事だー」の掛け声で 初期消火の訓練

3月27日に防災訓練を実施し、23人が参加しました。今回は防火管理者(筆者)の計画立案のもと、大西拓磨総務課主任が訓練実施者で実施。消火器の仕様説明や、実際にデモ



(消生記者 嵐 仁志)



〈神奈川〉横浜市南部病院 特定行為研修1期生が 新たなステージへ

3月17日、1期生4人が看護師特定行為研修を修了しました。修了生4人は病院、訪問看護とそれぞれの場所で修得した特定行為を実践します。

指導者から「これからが始まり」「皆さんに期待しています」とエールを送られ、修了生は「質の高い医療・看護の実践をしていくために、今後も自己研鑽を続けていく」と力強い言葉で応えました。続けて行なった入講式では2期生がその言葉を聞き、緊張と期待に目を輝かせていました。

当院は「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と「動脈血液ガス分析関連」の特定行為2区分を開講しています。近



5ブロック協議会で 施設看取りを考える

3月19日、令和6年度第2回5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会を開催し、75人が参加しました。

今回は、飯塚市・嘉麻市・桂川町の施設100カ所を実施

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

隣病院や訪問看護ステーションの看護師を受け入れ、当院とともに周辺地域の医療水準の向上を目指していきたいと考えています。

(統括教育センター・特定行為
研修室副室長 小山田成美)

した「施設看取りに関する事前アンケート」の結果を踏まえて事例検討。アンケートからは施設看取りの実施有無にかかわらず、職員の教育やフォロー体制など同じ悩みを抱えており、看取り経験のない若い職員が精神的に疲弊し離職につながるなどの問題も分かりました。

事例検討では、実際に施設看取りに取り組んでいる老健職員が、熱い思いとともに事例を紹介。皆温かな気持ちに包まれながらグループワークを行ないました。医療機関が看取りに携わる施設職員の研修や実習を担い、支えるシステムを構築していく必要性を感じました。

(地域連携福祉事業課長
濱崎妃沙子)

〈和歌山〉特養潮光園 ネパールから第3期留学生

当園では令和3年度に第1期の留学生をミャンマーとネパールから受け入れ、今年度は3期目としてネパールからラジャニさんを迎えました。

今までの留学生は日本語会話能力が高く、日常会話も何不便なくこなしてくれました。仕事

も熱心で、利用者の皆さんからとてもかわいがられています。4月2日から勤務を開始したラジャニさんも、先輩たちに負けないくらい日本語会話能力に優れています。ちょっぴり日本食が苦手で、チキンナゲットが大好きとのこと。

伊藤秀一支部長は「エエインさん、アンジャナさん、アンビカさん、そしてラジャニさんと3期にわたり、有田医療福祉センターも少しずつ国際化してきました。この取り組みは留学生を大事に育て上げることを主目的にスタートしました。今後も継続したいと考えています」と話しました。

(消生記者 山崎良彦)



新潟県央基幹病院

新しい救急車をお披露目

このたび、燕・弥彦総合事務組合から寄贈いただいた救急車を、新しいデザインに刷新し、2月28日にお披露目しました。



救急車といえば、赤と白の配色を思い浮かべる方が多いと思いますが、実はその色には法律で定められた意味があります。歩行者や車の運転手などに「これは緊急車両である」と一目で分かるよう、目立つ色が採用されています。

当院の救急車は、主に転院搬送に使用されていますが、災害時にはDMATの活動にも使われます。DMATは医師、看護師と他の医療職や事務職員で構成されるチームで、当院では全職種総勢21人が所属しています。

新しくなった救急車を活用し、近隣医療機関との連携をより一層深めることで、「地域全体でひとつの病院」としての医療体制づくりを進めていきます。

(事務総務課 富澤 環)

〈大阪〉富田林病院

冬の感染症予防地域に呼びかけ

2月6日に寺池台第4集会所、20日に梅の里南自治会西集会所で、冬の感染症予防についての講演会を開催しました。このイベントは寺池台校区福祉委員会、梅の里南地区福祉委員会からの依頼によるもので、当院の感染看護認定看護師である奥田賢次看護師が講師を務めました。

インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症が再び広がりを見せる中での開催となったため、参加者の関心は非常に高く、2



〈埼玉〉川口総合病院

増加するカスハラ被害現状と対策を検討

2月21日、静岡済生会総合病院で令和6年度防犯担当者連絡



会議が開催され、28施設の防犯・安全・渉外担当者39人が集まり



ました。筆者は会議の運営スタッフとして参加しました。

近年、医療現場では患者やその家族から常識を逸脱した行為(カスター・ハラスメント)による被害が増加。職員が心労により体調を崩し、離職につながるケースも増えています。このような状況を踏まえ、会議では各施設の現状や対策について円滑に意見交換を行ない、防犯への理解を深めることを目的としました。

会議では〈埼玉〉加須病院の新井康弘事務部長が防犯担当の役割について講演し、当院の高橋亮支渉外課長が院内トラブルと現状の関係について報告しました。

参加者からは「他院の防犯対策を聞くことができて参考になった」などの声が寄せられました。

(渉外課 増尾嘉浩)

看護研究発表会に50人 山口総合病院

2月18日、コロナ禍を経て5年ぶりに、院外講師を招いて対面式での看護研究発表会を行いました。平日診療時間内の実

和歌山病院

消防局と有意義な意見交換

2月27日、当院7階講堂で第4回和歌山市消防局・症例検討会を開催しました。昨年7月に続き、2024年度2回目の開催となりました。

今回は当院からの約15人に加え、和歌山市消防局から37人の救急隊員が出席しました。和歌山市消防局の事例発表で

高野知代子

(看護部 副看護部長)

施でしたが、約50人が参加。当院では2年の研究期間を設け、院外講師に指導を受けながら計画を修正し、より精度の高い発表に取り組んでいます。

委員会メンバーが丸となり準備を進め、当日は「退院支援への関わり方」「意思決定支援の教育介入と効果」など計11テーマの発表を行いました。発表後は質疑応答が活発に行なわれ、実りのある発表会ができたと感じています。



は、実際に当院に救急搬送された患者さんの症例が挙げられました。また、意見交換も活発に行なわれ、救急搬送された患者さんの入院から退院までの治療内容や経過など多くの情報共有を行なうことができました。

今後も和歌山市消防局との貴重な症例検討会を継続しながら、昨年度の2402台に続き、今年度も年間2000台以上の救急車受け入れを達成し、地域貢献の一助となるように日々の業務に取り組んでいきます。

(済生記者 松元靖寿)

〔鳥取〕 境港総合病院 資格試験にダブルで合格

情報管理課の鶴田亜珠さんが「診療情報管理士認定試験」と「がん登録実務初級者認定試験」に見事合格しました。

鶴田さんが診療情報管理士の資格取得に挑戦したきっかけは、「業務に役立つよ」と職場の先輩に勧められたから。令和4年から勉強を始め、2年間かけて基礎課程と専門課程の学習を進めました。

さらに、担当している全国がん登録に関する知識を深めるため「がん登録実務初級認定試験」にも挑戦することに。令和6年9月、令和7年2月と半年間で二つの試験に挑み、見事合格を果たしました。

鶴田さんは「理解度が上がったいくにつれ、どんどん興味が湧いて楽しかったです。これからもさらに知識を深め、仕事に生かしていきたいです」と話してくれました。

（済生記者 亀尾美子）

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

1万1111人目の患者さんと記念撮影

この度、陸前高田診療所では新規



登録患者数が「11111」を迎えることができました！ ぞろ目で縁起が良いことと思ひ、当診療所の10周年記念にも花を添えられたのではないかと喜んでいます。

1万1111人目となったのは、3月1日に来所した患者さん。その



ことをお伝えし、記念撮影をしました。

住民の皆さんに支えられて、ここまでの月日を過ごすことができました。今後も皆さんにとって住みやすいまちづくりの一助になればと思っています。「自分らしい生活が送れる」をモットーに、診療所として取り組んでまいります。

（岩手・陸前高田診療所 済生記者 高橋恵美子）

★「22222、33333……」と続くことでしょう。「済生」10月号で10周年を大特集する予定です。

（本部広報課長 河内淳史）

えびすさま作ったでー！

〔岡山〕憩いの丘デイサービスセンターのある地域は、居宅サービス事業激戦区。年度変わりに心機一転を思い、福の神である「えびすさま」



を皆で作ろうと決めました。まずは袴作りです。古いネクタイをほどこいて縫い合わせます。大変な作業でしたが、利用者さんは「こりゃ何になるんでー」と楽しみながら一生懸命ほどこいてくれました。面作りは紙粘土で形を整え、アクリル絵の具で色付けをしました。担当した利用者さんは4月で98歳。も



はや、えびすさまのようなお方です。「難しいなあ」と首をひねっていましたが、上手く出来上がりました。

利用者さん 5人・職員2

人が参加し、制作期間は約2カ月。ついに完成したえびすさまに、利用者さんは「誰か立つと思うて、お辞儀しそになるんよー」と思わず笑顔に。千客万来！

（岡山・憩いの丘デイサービスセンター 生活相談員兼介護職員 上田悦子）

★素晴らしい仕上がり!! 98歳の「えびすさま」に弊社の分も作っていただき、福を分けてほしいです。

（メディカル・リーフ 坂本陽子）

多様性を表す青の装飾！

4月2日は世界自閉症啓発デーでした。（北海道）発達支援事業所きつずてらすも啓発活動に参加。地球上で比較的早く日付が変わる日本から、世界でいち早く啓発活動を行ないました！

前日にスタッフ総出で、事業所前をお祭りのように風船を使ってアレ



ンジ。一部の風船は、事業所に通う子どもたちが膨らませる手伝いをしてくれました。テーマカラーの青一色でも、さまざまな色味を用いることでカラフルな印象に仕上がり、まるで多様性社会を表しているようにした。

誰もが輝ける社会の実現に向けて、私たちを取り巻く社会にはいろんな人がいること、そして私たち自身にも多様性があることを知ること、はとて大事な視点だと思っています。市民全体にこの考えが行きわたるよう、今後も啓発活動を定期的に行なっていくしたいと思います。

（北海道・発達支援事業所 きつずてらす 管理者 小玉武志）

★済生会手帳の表紙にもなった小樽



フォント「せいがいはい」のように初夏の涼やかさを感じます。

（本部広報課長 河内淳史）

大阪・関西万博、開幕！

4月13日、「EXPO2025 大阪・関西万博」がついに開幕しました！ 大阪府災害拠点病院である千里病院は、日本国際博覧会協会からの依頼を受け、会場内の診療所に医師と看護師を、そして防災の拠点となる危機管理センターには統括責任者を派遣しています。

秋篠宮皇嗣殿下がご臨席された開会式当日も、当院の医師と看護師は診療所での業務にあたっており、万博を訪れる多くの方々の安心・安全を支える医療救護体制の一端を担っています。

春の訪れを告げる桜の季節

〔福岡〕特養むさし苑では、施設敷地内にある一本桜が見頃を迎え、多くの入居者さんや地域の方々々がその美しい姿を楽しんでいます。むさし苑の一本桜は幹が太く力強く、毎年華やかな花を咲かせます。

春になると入居者さんがご家族と一緒に見に行ったり、ベランダから職員と桜を眺めたりしながら心温まるひとときを過ごしています。

今年は昨年に比べて早く満開を迎え、優雅なピンク色の花が穏やかな春の風に揺れています。入居者の皆さんは、「桜が咲くと春を感じる」「久しぶりに外に出て、桜を見てうれ

★救護や防災、多様な役割を果たす千里病院は、変幻自在な「ミヤクミヤク」とどこか似ていますね。

（大空出版 江口仁盛）



しい」と笑顔で語っています。
スタッフも入居者さんと一緒に桜を眺め、記念写真を撮るなど楽しい時間を共有しています。

(福岡・特養むさし苑)

済生記者 岸川涼二

★満開の桜を見てみると自然と心が穏やかになりますよね。見下ろす桜もまた一興です。

(メデイカル・リーフ 岩谷純二)



コンテンツに応募して

済生丸見学ができました！

〈大阪〉吹田病院で障害者雇用の職員として看護部に所属している池細明紀さんは、乗り物の絵を描くことが大好き。池細さんの絵は、見える物の一方向からだけでなく、見えない角度を想像して描かれることが特徴です。

そんな池細さんが「済生丸お絵かきコンテスト！」を知ったのは応募

期限の1〜2週間前。いつもは1カ月以上かけて1枚の絵を描くところ、急いで仕上げてコンテストに応募しました。

その結果、船内見学に招待され、4月8日に就労支援担当の尾上淳子看護師とともに岡山県に停泊する済生丸を訪れました。整った設備に驚きながら興味深々に見学する池細さん。後日談で、診察室の医師の椅子



に座れたことが一番うれしかったと笑顔で話しました。

(大阪・吹田病院)

済生記者 橋本 茜

★瀬戸内海を巡る「済生丸」が目につかびます。想像しながら描かれたとは思えません……。

(本部広報課 大嶋 薫)

家族と楽しむだれ桜

4月6日に、家族4人で小田地区のしだれ桜を観に行きました。竹崎さん宅の敷地内にあるこの桜は、先代の勇さんが若かりし頃「農作業が忙しくて花見にも行けない」と自ら植えたとのこと。60年以上の月日が経ち立派に成長しています。勇さんは数年前に亡くなり、現在はご子息の孝志さんが管理、一般公開されています。

小さな池のほとりに立つ見事なしだれ桜は、遠目からでもはつきり分かる大きさと美しさです。私の家族もこのようなしだれ桜を観るのは初めてで、「きれいやな」と何度も発していました。

内子町には他にも多数の桜の名所があるため、来年も家族で取材に向かい「楽しみたいと思います」。

(愛媛・小田診療所 済生記者 福岡博実)

★見事なしだれ桜ですね……。菜の

花とのコントラストも最高！ 私も取材、行こうかな？

(本部広報課 大嶋 薫)



何色の花が咲くのかな

4月のある日、〈新潟〉特養康和園でチューリップが開花しました。このチューリップは第四北越銀行が昭和45年から行なう県内福祉施設などへの「チューリップ寄贈活動」一環で、当園にもいただいたものです。

今後は入居者の皆さんと一緒に、当園中庭への植え替えを行なう予定です。まだ開花していないチューリップもあり、「何色の花が咲くのかな」と皆ワクワク！ 入居者の皆さんや職員、来園者の方などの心を和ませてくれるチューリップの成長

を、楽しみに見守っています。

(新潟・特養康和園 済生記者

山田裕樹)

★花言葉の通り「思いやり」がこもったカラフルなチューリップと、皆さんの笑顔が目につかびます。

(大空出版 高橋美憂)



桜と笑顔咲き誇る春が好き

3月下旬の暖かい日、「桜はもう咲いているのかしら？」と入居者さん。毎年、桜が咲くと施設の目の前にある小鹿公園まで散歩に行き、お花見をしています。入居者さんは桜の開花を楽しみにしているようです。

4月に入り、少しずつ桜が咲き始め、ようやくお花見が実現！ きれいに咲く桜を見て、皆さん「きれいだね」とうっとり。

「桜とわたし、どっちがキレイ？」



と入居者さんに聞かれ、「桜もとてもきれいだけど、その何倍も皆さんが

次号予告

済生 No.1152 [令和7年6月号]

済生会の不易流行論 (201) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 小島慶子

口福につぼん (93)

てづくりおもちゃ いまいみさ



気投合。にわか、小鹿なでしこ苑芸部が開催されました。

皆さんシャベルを持ち、土と腐葉土を混ぜ、とても手際良く種を植え、



熊本、松山から「愛」をお届けします！

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



あつという間に作業終了！
「何年ぶりに土をいじったんだろ。楽しかった〜」「芽が出るというけど……」「美女なでしこって？」どんな花が咲くんだろう？」と作業中は会話が弾み、おしゃべりの花も満開に。皆さんこれからの楽しみが一つ増えたようです。

今後、成長に従い鉢を交換していき4カ月ほどで咲くそうです。目指すは「済生会なでしこカレンダー」掲載！募集メー切に間に合うように願うばかりです。

(静岡・小鹿なでしこ苑
地域相談員 望月重紀)

★「美女なでしこ」って名前もステキ！どんな花がワクワクしますね。ご応募お待ちしております。

(本部広報課 杉山菜央)



いか」をテーマにさまざまな部署の方々と直接話す機会も。「常に学ばせてもらっているという姿勢を大切にしたい」(研修医)、「病院の顔として、笑顔と元氣な挨拶を心掛けたい」(事務職員)など、新人職員それぞれの意識の高さを感じました。

私は総務・企画課に所属し、今後は本誌への寄稿をはじめ広報活動を担当。当院の魅力や取り組みをより広く発信します。

(福井県済生会病院 済生記者 橋本来林)

★広報デビューおめでとうございませう。一緒に済生会ファンづくり頑張りましょう！

(本部広報課 杉山菜央)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 済生会となっている。

職員数は全国で約6万6000人。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 東京 支部 40都道府県
本院 83
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
介護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 119
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 66
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 405 (数字は令和5年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。

済 生

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年5月10日発行
通巻第1151号 (第101巻第5号)

編集兼 炭谷 茂
発行人
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073
東京都港区三田 1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀 4-4-1
©社会福祉法人 済生会

その一瞬の
あなたの感動が、

2026年・2027年版
済生会なでしこカレンダーの写真募集



★2年に1度のチャンス!! 上期下期各1枚、2年分の計4枚
を選定し、毎年配付するカレンダーのデザインに使用します。
★入選者には済生会の障害者就労支援事業所が製作・販売している「なでしこファーム」
のお菓子セットを進呈します。

みんなの感動に。

可憐ななでしこの無垢なすがたから、
ハッとさせられる斬新な視点まで。
あなたの捉えた最高の一瞬を、ぜひお寄せください。

お問合せ・
提出先

済生会本部
広報課

koho@saiseikai.or.jp

締め切り

令和7年7月31日(木) 必着



応募用紙



募集要項

【写真の仕様】●題材はなでしこの花。自生・栽培種のいずれも可。●デジタルデータでサイズは1MB以上、正確なピン
トと露出補正で撮影してください。●構図は横向き。●写真に撮影日が入っているものは不可。【応募資格】●済生会職員（アルバイト含
む）、職員家族、済生会で活動するボランティア。【応募方法】●メールにて「写真データ」と「応募用紙」をご提出ください。【応募方法】
●応募点数は1人1点まで。●写真のデータ量が大きすぎるとメール添付で送信できない場合があります。なでしこクラウドや外部スト
レージをご使用ください。●応募作品は採用結果に関わらず、法人ホームページやパンフレット等に使う可能性があります。

済生会となでしこ

初代総裁・伏見宮貞愛親王が創立当時、「撫子の歌」を済生会の事業に寄せられたのにちなみ、いつの世にもその趣旨を忘
れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが済生会の紋章になっている。